

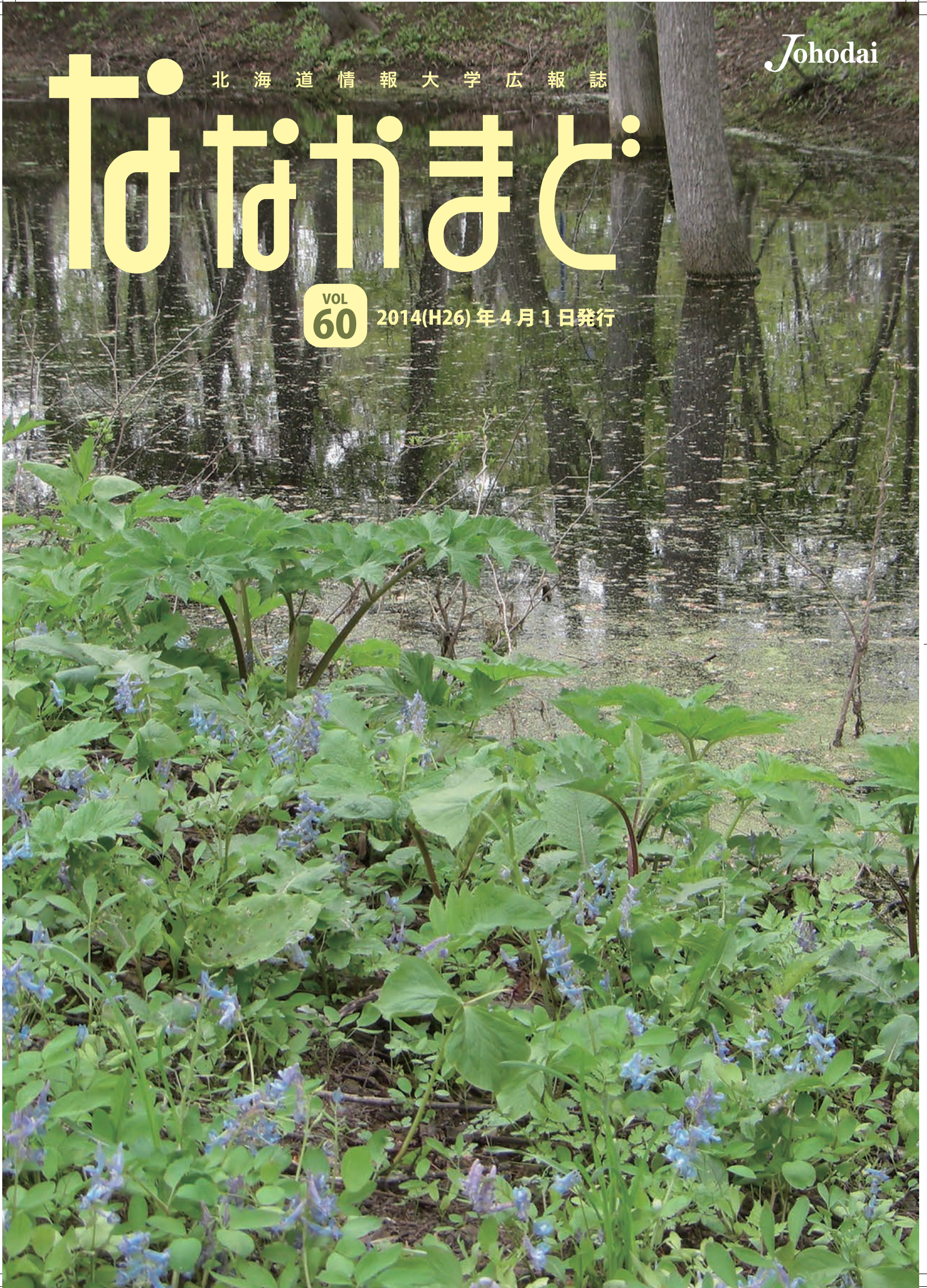
Johodai

北海道情報大学広報誌

# となかまど

VOL  
60

2014(H26)年4月1日発行



北海道情報大学広報誌  
**ひななまど**

2014 (H26) 4月1日

**CONTENTS** — もくじ

**VOL. 60**

01	表紙
02	目次
03	北海道情報大学の教育について (2) 富士学長
04-05	医療情報学部の教育について 西平医療情報学部長
06	HIU 大学紀要
07-09	学位記授与式
10-11	学部紹介・情報メディア学部
12	「えべつ未来づくりビジョン」冊子デザイン・プロジェクト
13	しみサポ KIDS ページのリニューアル報告
14-16	学生サポートセンターからのお知らせ ・「北海道情報大学 大学説明会」開催 ・「北海道情報大学 企業・病院説明会」開催 ・卒業生インタビュー
17	北海道情報大学大学院からのお知らせ
18-19	平成 25 年度北海道情報大学公開講座 終了報告
20-21	ゼミ紹介 先端経営学科合同ゼミ、医療情報学科松田ゼミ 情報メディア学科守ゼミ
22-23	グラフィックページ
24-25	第 8 回プログラミングコンテスト結果報告
26-27	メディアデザイン展 2013 報告
28-29	第 1 回 日中学生文化交流会を開催して
29	学内囲碁大会 結果報告
30	外国人留学生による「餅つき会」報国
31	クラブ紹介・弓道部
32-38	図書館賞
39	Library News
40	マックとヒデオのエマージェンシー会話
41	この先生の裏の顔 経営情報学部 谷口文威先生
42	女子カフェ
43	主要行事等
44	なななまど編集隊



### 情報大学の「すごい」を

今回の北海道情報大学の凄い事実（日本の大学で初めて）は、本学の創立者である松尾三郎博士が、IT教育とeラーニング分野の先駆者であり、現在も、本学は、他大学に先駆けて先進的なeラーニングシステムを研究・開発し、eラーニング分野の先駆者として高く評価されていることです。

### 日本で初めてが本学にある

わが国における情報処理教育分野での初めてのコンピュータ利用（CAI: Computer Assisted Instruction）は、昭和59年（1984年）、PINE-CAIとして電子開発学園（現理事長松尾泰）に導入されました。平成6年には、本学通信教育部に、わが国で初めて衛星通信を活用した衛星教育ネットワークシステム（PINE-NET）が導入され、平成15年よりインターネットを活用したeラーニングシステム「無限大キャンパス」として今日まで利用されています。

### 全ては学生の成長に

本学のキャンパスに隣接する北海道情報技術研究所でも新しいeラーニングの研究開発が平成3年から7年間のプロジェクトで行われました。その研究の成果が、文部科学省の競争的資金である「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）」の採択に繋がっています。現代GPプロジェクトは、平成17年から3ヶ年かけて「学習者適応型eラーニングシステム（POLITE）」として開発されました。システムの開発や教材開発では、本学の学生がプロジェクトメンバーとして活躍し、多大な貢献を果たしました。POLITEは、対面授業（講義形式）よりも学習効果が高いことが実証されており、第1回教育ITソリューションEXPO（平成22年、東京ビッグサイト）から本学に講演依頼があり、専門セミナーで発表致しました。現在では、「キャリアデザインⅢ」や「情報システム学概論」等の科目でフルeラーニング授業の形態で利用されています。「学習者適応型eラーニングシステ

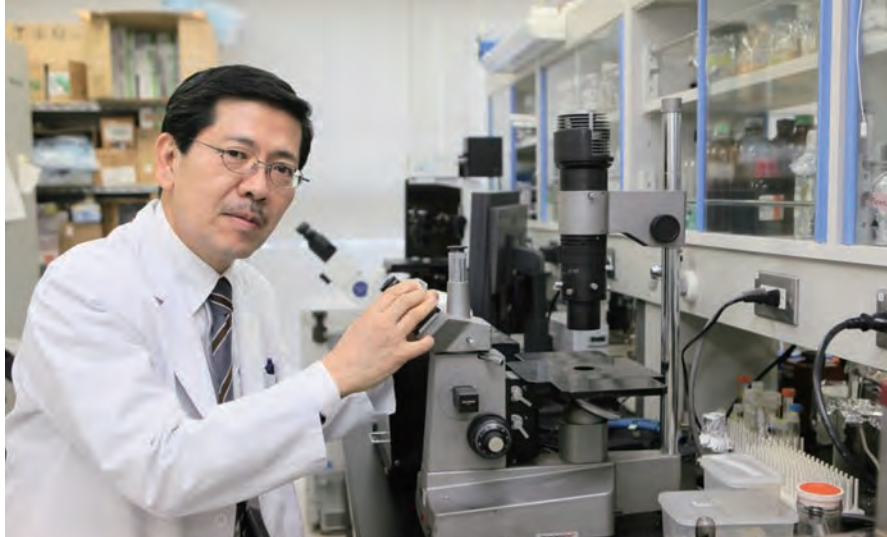
ム」の利用は、わが国では本学が初めてですが、今後の利用の拡充と、さらなる改善が求められているところです。

### 挑戦を待っています

学生の成長は、キャンパスにおける授業での学び、海外留学やインターシップの体験、課外活動での活躍等、さまざまな機会があると思いますが、現代GPというリアルなプロジェクトを体験した学生は、想像以上に成長しました。そして、そのような環境を残してほしいという学生たちの強い希望で実現したのがeラーニング推進センターです。現在でも、リアルなシステム開発や教材開発の現場があり、そこで学生が活躍しています。その扉は、いつでも開いていますので、学生の皆さん、挑戦してみましょう。

 to be continued

## 「医療情報学部の教育について」



### ●はじめに

医療情報学科は「医療と情報の融合」をテーマに平成 18 年に経営情報学部を設置され、平成 25 年から医療情報学部医療情報学科としてスタートしました。医療情報学は、情報技術分野と医学医療分野の異なる領域が融合した学問領域で、患者個人の診療情報（一次情報）から疫学調査による地域の保健情報（二次情報）、さらに医療の基礎となる遺伝子研究など先端研究情報まで幅広い分野を対象にしています。医療情報学部は、医療情報学の専門的な知識と技術を習得し、社会の発展に貢献できる人材を育成します。医療情報学は、急速に発展する医療と情報の両分野の新しい技術を取り入れダイナミックに変化しており、本学医療情報学部も積極的に新たな分野に取り組む必要があります。

このような状況を踏まえ、平成 26 年度からは、医療経営コースや栄養学・食品学を中心とした健康情報科学コースが開始されるなど新たな動きがあります。北海道情報大学の強みの一つである情報技術を活用した教育システムと連携した先進的な健康・医療情報の教育環境を整備します。ヘルスリテラシー教育の重点化と他学部との密接な

連携を図り、総合大学としての優位性を活用します。少子高齢化を迎え予防医療の重要性は益々高まっており、医療情報学部が提供するヘルスリテラシー教育は地域社会のニーズに応える学生を育成し、健康社会の創造に役立つと考えています。このことを念頭に、以下の具体的な取り組みについて紹介いたします。

### ●育成する学生像

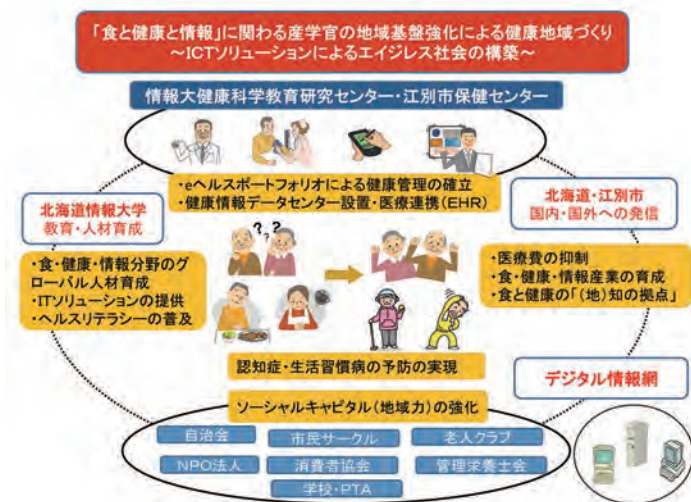
医学・医療、健康および栄養（食の機能性）の知識を生活習慣に取り入れ、疾病の予防と健康増進に繋がる健康管理力を習得し（ヘルスリテラシー）、また情報の基本的な知識と技術（インフォメーションリテラシー）により、地域社会に貢献できる（ソーシャルリテラシー）意欲のある学生を育成します。

●目指す3つのリテラシーとは  
学習の達成度を明確にするため、それ

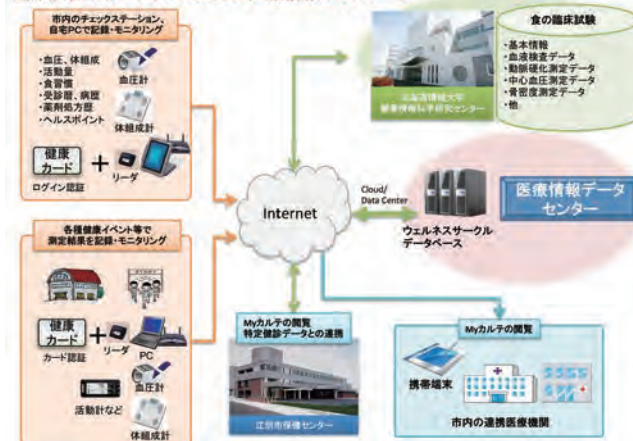
医療情報学部長 教授 西平 順

ぞれリテラシーをレベルⅠ～Ⅲで構成し、教育の質を保証します。医学・医療、健康、栄養（ヘルスリテラシー）は、  
レベルⅠ：食と健康についての基礎的な知識を有している（科目例：医学入門、栄養学、解剖生理学等）、レベルⅡ：食と健康についての知識を活用し自らの健康管理ができる（科目例：臨床医学概論、看護学、食品科学等）、レベルⅢ：食と健康に関する知識と技術を用いて住民の健康管理ができる（科目例：地域医療学、老年医学、臨床医学等）ことを目標とします。情報（インフォメーションリテラシー）は、レベルⅠ：情報技術を理解し、基礎的な技術を有している（例：Microsoft Office (Word, Power Point, Excel etc.) などを操作)、レベルⅡ：情報技術を活用し、提案に対し計画などの資料作成ができる（例：WEB 作成のための基本技術）、レベルⅢ：情報技術を応用し、自ら計画について企画・立案ができる（例：情報応用技術）ことを目標とします。社会貢献（ソーシャルリテラシー）は、レベルⅠ：地域の課題について理解している（科目例：地域経済論）、レベルⅡ：地域の課題解決のための知識を有している（例：地域活動への参加）、レベルⅢ：地域の課題について問題解決案を提案できる（例：企業インターンシップ、地域活動の企画）ことを目標とします。





臨床試験ボランティアのための医療情報ネットワーク



●地域が抱える課題に取り組む学生生活を支援する

地域が抱える課題として、少子化と若者の流出と高齢化の進展による地域力の低下があります。このような課題を解決するため、以下の内容で学生教育を実践します。

- (1) 若者と高齢者が交流する活気あふれるまちづくりを進めるために、①情報技術を児童や高齢者に提供できる、②児童と高齢者がふれ合う機会を設けることができる人材を育てます。これにより、地域貢献型の人材の育成と食、医療、情報分野の地域活性化が期待できます。
- (2) 医療情報技術による健康・食の先進地域を創世するために、①健康情報(eヘルスレポート)の集積・管理ができる、②生活習慣病に関する知識を十分に備えている人材を育てます。

これにより、eヘルスポortフォリオによる健康管理、および生活習慣病・認知症の予防効果を実現できます。

(3)「食の健康と情報」としての地域のブランド化を進めるために、「食と健康」について十分な知識を有している人材を育成します。

●今後の取り組み

教育、研究、地域貢献の3分野で具体化していきます。

- (1) 教育分野においては、医学・医療、健康、栄養、情報技術、地域志向を念頭に教育を実践します。例として、①地域が求める専門的な人材の育成、②高大連携(健康情報に関する出前授業など)の推進、③地域団体へのインターンシップ(食品衛生など)の実施などが挙げられます。
- (2) 研究分野においては、教育効果を上げるために必要な研究を行いま

す。例として、①健康情報セキュリティ技術の開発、②食の臨床試験の高度化(機能性食品の新規評価法の開発など)、③健康カードシステムの拡充、④社会貢献を推進する仕組みづくりの企画立案などが挙げられます。

(3) 地域貢献分野においては、地域課題の解決に繋がる学生教育を実践します。例として、①在宅医療・介護の補助を目的とした食と健康の啓発活動、④栄養士の食事指導の補助活動、⑤健康チェックアプリケーションの開発・提供、⑥地域医療情報ネットワーク構築などが挙げられます。

以上に述べた医学・医療、健康、栄養、情報に関わるリテラシー教育を着実に実践し、医療情報学から健康科学に至る幅広い知識を有し、また心豊かな学生を育成し、地域に貢献していきたいと思いを新たにしております。

次回は情報メディア学部について

# 北海道情報大学 紀要 25-1

北海道情報大学紀要（英：Memoirs of Hokkaido Information University）は、大学北海道情報大学が定期的に発行する学術雑誌です。紀要発行の意義は、研究発表の場を確保することにあります。北海道情報大学では毎年2回紀要が発行され、内容は、論文のほか、解説、研究ノート、報告などが載せられています。本学の教員が研究者として日常取り組んでいる研究テーマをここに掲載いたします。また、内容をご覧になりたい方は、ウェブサイトでご覧いただけますので、下記のURLからご覧ください。

## 《 論文 》

### The Application of Entertaining, One-Point Videos as Motivational Learning Material in Remedial English Education

英語リメディアル教育のためのミニ動画教材の開発  
ソーラ・サイモン、荒木陽子、奥山尚史

### スマートデバイスに対応した本学学内LAN向けネットワーク認証統合システムの開発

Development of the Integrated Network Authentication System Which Supports Smart Device for Campus LAN in Hokkaido Information University  
黒田学 中島潤

### 関数の関連性について

On the continuity of functions  
笹山智司（北海道大学） 松井伸也

### 分数の定義とその割り算について

On the Definition of fractions and their division  
松井伸也 笹山智司（北海道大学）

### 『詩学』の原因論における「類」と「種」

Aristotle on the Two Causes of Poetry  
三浦洋

### 自律的なFD活動を支援する情報システム：CANVASシステム

Development of the System for Supporting of Autonomously FD Actives: CANVAS System  
山北隆典 谷川健 藤井敏史  
前田真人 平野雄一 富士隆

### ユニバーサル段階の大学教育と主体的学びに関する一考察

The Considerations of Educational Supports for Active Learning by Students in the Era of Popularization of University Education  
隼田尚彦

## 《 解説 》

### 生活習慣病関連遺伝子の多型解析

Analysis of genetic polymorphism for lifestyle-related diseases  
中林秀和

## 《 研究ノート 》

### 〈学校と共同体〉再考に向けて

For a Rethink of 〈School-Community〉  
小西二郎

### 子思と『中庸』について

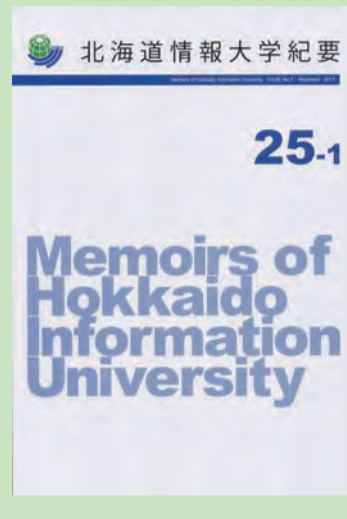
On Zi Si and the book of Zhong Yong  
玉置 重俊

### 中高年の運動不足解決に向けた類似観光体験システムの開発

Development of Virtual Sightseeing Experience System for Middle-aged and Older People having Lack of Exercise  
長尾光悦 伊藤修司

### 人としての在り方や生き方についての教育の今日的課題

一いじめ根絶をめざした道徳教育の課題に関連して一  
Contemporary Problem on Education of Way to Be and Way to Live as Human Being  
-Relating to the Problem of Moral Education aiming at the Bullying Extermination-  
林雄一郎



### プロジェクトマネージャー体験シリアスゲーム TOYOSU ON の開発

Development of Serious Game TOYOSU ON for Project Manager based on Virtual Training  
斎藤一

### Humor in the English Language Classroom The Lubricant Which Smooths Out a Language Lesson

チャールズ・マクラティ

## 《 報告 》

### 2012年度先端経営学科FD活動報告

2012 FD Activity Report by Department of Business and Information Systems, HIU  
坂本英樹 向原強 谷口文威

## 《 学内共同報告 》

### 学生のストレス対処力に及ぼす諸要因および現状の検討

Examination of the Actual Conditions and Factors Affecting the Power of Coping Stress in University Students  
佐藤浩樹 蔵本信比古 向原強  
和田龍彦

●こちらで閲覧できます

[http://www.do-johodai.ac.jp/kiyou/kiyou\\_25\\_1.html](http://www.do-johodai.ac.jp/kiyou/kiyou_25_1.html)



# 北海道情報大学 学位記授与式



## 平成 25 年度 学位記授与式 挙 行

平成 26 年 3 月 19 日（水）午前 10 時から午前 11 時 30 分、本学松尾記念館講堂において、平成 25 年度北海道情報大学学位記授与式が挙行されました。

経営情報学部は第 22 回、情報メディア学部は第 10 回、通信教育部は第 17 回、大学院は第 17 回となる合同で行われた学位記授与式の模様は、会場に設置されたテレビカメラ 5 台により、保護者室の 211 教室や全国の各教育センターにも同時中継されました。

今年度は、卒業生が例年よりも多く、会場となった松尾記念館講堂には、150 名ほどの保護者席しか用意できなく、来学された卒業生・修了生の保護者全員を収容することはできませんでした。会場に収容できなかった卒業生・修了生の保護者の方々には、保護者室として用意した 211 教室にて、リアルタイムで放映している式の模様をご覧頂くこととなりました。

学位記授与式は、厳粛なうちにも和

やかな雰囲気の中行われ、特に学位記授与及び賞状授与では、参加者全員が拍手をするなど、祝福ムードいっぱいにも包まれていました。

### ●卒業生

- ・経営情報学部
  - 先端経営学科…………… 58 名
  - システム情報学科…………… 71 名
  - 医療情報学科…………… 59 名
- ・情報メディア学部
  - 情報メディア学科…………… 164 名
- ・経営情報学部 通信教育部経営学科  
経営ネットワーク学科… 39 名
- 情報学科、システム情報学科 279 名

### ●修了生

- ・経営情報学研究科…………… 4 名
- 式後には、卒業アルバムに掲載される卒業記念写真の撮影が行われ、その後、学科等別の学位記授与、体育館での卒業祝賀会と続きました。（次ページへ）



式 次 第

— — — — —

修 式 閉 卒 賞 祝 理 学 学 開 修  
礼 式 業 状 辞 事 長 位 式 礼  
の 生 授 ・ 事 長 記 記 式 式  
辞 答 与 祝 祝 告 授 授 次  
辞 辞 披 電 辞 辞 与 与 第  
辞 辞 露 披 辞 辞 与 与 第



## 各学科ごとの学位記授与式

講堂での全体学位記授与式、優秀学生表彰式のあと、学科ごとに分かれて卒業生全員に学位記と記念品が渡されました。

講堂とは違い、楽しい雰囲気での授与式です。学位記は担当の先生から手渡されるとあってリラックスした雰囲気でした。また、同じ教室に保護者の方々も同席され、記念写真を撮ったり、学位記を見せ合ったりしていました。





## 卒業祝賀会

卒業祝賀会は、午後1時30分から午後3時、本学体育館において行われ、司会は在学生の見浦壮彦さん（情報メディア学科3年）が務め、卒業生・修了生に祝福と感謝・惜別の想いを込めた軽音楽部による演奏など、これまでにない凝った内容のプログラムで構成され、とても素敵な会となりました。

また、昨年より始まった屋台が盛況だったことを受け、今年は屋台の数を倍増し、中でも人気となった焼きそばやジンギスカンは、長蛇の列ができ、用意されたそれぞれ150人前が開始1時間を待たず売り切れとなるなど、大盛況でありました。

学位記を手にした卒業生・修了生たちは、大学との別れを惜しんでいました。（総務課）



# H.I.U 学部紹介

情報メディア学部 編

1989年4月に創立された本学は、当初経営情報学部（経営学科、情報学科）だけの大学でしたが、その後2001年4月に、情報メディア学部（情報メディア学科）が開設されました。情報メディア学部は、情報メディア学科のみの学部ですから、学部といっても学科といっても指すものは同じです。ここでは情報メディア学科（以下本学科と書きます）と統一したいと思います。

さて本学科は、現在メディアデザインとメディアテクノロジーの二つの専攻からなります。情報メディア（information media）とは、コミュニケーションの表現手段（ホームページ・文字・映像・画像など）やコミュニケーションの表現を伝達する手段（インターネット、電波・印刷物など）を表す言葉でしょうか。人によって理解の仕方が違うかも知れませんが、この文の中では上の様に理解することにします。本学科のデザイン専攻は「表現手段」の方法・理論・研究を行い、テクノロジー専攻は「伝達手段」の方法・理論・研究を行うことを主な目的としています。

二つの専攻は、様々な学生達と先生方から構成されています。先生方がどのようなゼミを行っているかを知ってもらうと、本学科の具体的なイメージが出来ると思いますので、何人かの先生にご本人の言葉でゼミを紹介してもらうことにします。なお講義概要を読んでいただくと全ての先生のゼミの内容が分かります。ここでは、それと少し違った表現をしてみたいと思います（あいうえお順です）。

## ●川上先生

私がグラフィックデザイナーということで、ゼミ3年次は「広告の研究、制作」が中心です。広告はまさに現代を象徴しています。課題は既成の広告を徹底的に分析し、勝手に制作者のコンセプトを探り当て、次に、それを自分でデザインします。逆の流れでコンセプトを立て、表現を徹底的につめて作り上げます。ビジュアルは写真専門学校の学生さんとスタジオでコラボ撮影し、プロ仕様のデータで完成します。4年生の卒業研究のテーマは「デザイン」というキーワードが含まれていればオッケーです！

川上先生が学生と行った行事 情報大学のV I をゼミ生と制作。旭川市の公園

「北彩都」のV I を共同研究。広報誌「ななかまど」学生編集隊を指導。WEBデザインコンテスト+国際コラボレーション。HIU ポスターデザインコンテスト。プロジェクトトライアル

## ●斎藤一先生

斎藤一ゼミでは、「こんなサイトがあったらおもしろい」、「あんなスマホアプリをつくってみたい」など、色々なアイデアを出し合って企画をし、実際にそんなアプリやサイトを作ってしまうという研究活動をしています。また、フィールドワークを重視し、江別市を含む北海道各所を現地調査し、アプリやサイト開発に生かしています。興味のある方は是非下記のゼミサイトをご覧ください。

URL : <http://s123.do-johodai.ac.jp>

斎藤一先生が学生と行った行事。メディアデザイン展 2013。『チカホでイイネ！市民活動がイイネ』学生ブース展示（隼田ゼミと共同）。江別まち歩きシリアスゲーム「BRICK STORY」（HOKKAIDO 学生アプリコンテスト奨励賞・観光情報学会研究発表会奨励賞）。メンタルヘルスツーリズムプロジェクト（システム情報学科長尾ゼミと共同）



1年生メディアデザインの基礎・演習



2年生2ビジュアル構成演習



BRICK STORY 開発プロジェクト（斎藤ゼミ）



チカホでイイネ！ 学生ブース

●中岡先生

Android OS を搭載したスマートフォンあるいはアンドロイド端末で利用できるアプリケーション(ゲームなどを含む)を、Java 言語 (Java アプレット) を利用して作成する。このようなソフトの開発により、プログラミング技術を基礎から鍛えることができ、システム開発に係る幅広い応用力を身につけることができる。

●森川先生

ゲーム制作 (3年次に2本、4年次に1本制作)

森川先生が学生と行った行事。森川ゼミ作品集を2回作成(オープンキャンパス等で配布)。ニコニコゲームフェス3へ参加

●安田先生

デジタルコンテンツ、おもにホームページの企画、制作、ビジネスプランの策定などをプロジェクトベースで実践的に学び、即戦力のあるクリエイティブ人材を育成します。

なお、ゼミの活動は、[ysd-lab.jp](http://ysd-lab.jp) か、[facebook.com/yasuda135](https://facebook.com/yasuda135) でご覧になれます。

安田先生が学生と行った行事。「星野リゾート トナム」の家族向けコンテンツの企画・制作。「餃子とカレーのみよしの」のホームページの企画・制作。「北海道体育文化協会」のホームページの企画・制作

●山北先生

ゼミでは Java プログラミングとリレーショナルデータベースの勉強とそれを活かしたアプリケーション作りが中心です。

山北先生が学生と行った行事。体育祭への参加と蒼天祭への参加です。

●福光先生 (2014 年度着任)

ゼミナールでは、ネットワークセキュリティに関する技術開発、もしくは情報セキュリティに関する実社会での問題への応用に関する研究開発に取り組む予定です。ユビキタス情報社会と呼ばれる現在において、情報セキュリティは重要なキーワードの一つです。インターネットを介した安全な秘匿通信やプライバシー保護の観点から、情報工学、情報科学、数理科学、そして人文科学的な手法を通してインターネットとセキュリティに関する様々な課題解決を目指します。

●藤原先生

カメラから取り込んだ映像・画像の分析や、情報の可視化に必要な CG の応用事例について取り組んでいます。

外部企業と画像処理に関する共同研究もしていますので、企業での開発を身近に感じるチャンスもあります。

●最後に、私 (松井) のゼミでは、数学の話を対象にゼミを行っています。本学の学生にとって数学は小中高で習ったものが基本です。しかし「数学」は様々な現象・理論・技術の基礎に必ず関わりがある工具です。インターネット、暗号理論、ゲームの作成にも数学の基礎が使われています。ギリシャ時代からの美しい割合とされる黄金比 $(1+\sqrt{5})/2$ などもあります。実際に工具としての数学が、どのような関わりを持つかを学ぶことがゼミの目的です。なおゼミでの主要行事は、夏に行う BBQ だと思えます。

以上で本学科の様子が分かっていただけたでしょうか。今後も本学科は、教員自らの向上を目指し、学生みなさんの期待に応えていきたいと思えます。



学外共同研究「旭川北彩都」公園 VI 研究



プロジェクトトライアル I



カレンダープロジェクト 2013

# えべつ 未来づくりビジョン

## 冊子デザインプロジェクト

高島 茜（隼田ゼミ3年） 海老澤萌子（情報メディア学科2年）  
林 哲郎（川上ゼミ3年） 藤根 紗 英（情報メディア学科2年）  
指導：隼田尚彦



江別市では、市民が自ら考え行動し市民自治を実現することを目的とする「江別市自治基本条例」を2009年に制定しました。本条例では、「協働」が謳われ、市民、自治会、市民団体、企業、大学、行政などの様々な主体が互いの得意分野を生かしながら、まちづくりに関わることを期待しています。

本「えべつ未来づくりビジョン」冊子デザイン・プロジェクトは、その考え方の一つとして、江別市から受託しスタートしました。プロジェクトは、2・3年生4名からなるチームで、遂行されました。

「えべつ未来づくりビジョン」は第6次江別市総合計画として策定され、今後10年間の江別市の進む方向性を定めたもので、「えべつまちづくり未来構想」と「えべつ未来戦略」で構成さ



れます。部局横断的な計画で、上述した様々な主体が関わりながら進めようとする計画であるため、人口の1/4近くを占める高齢者から若者までの幅広い市民の皆さんに読んでもらえる紙面デザインが求められました。

紙面は、フルカラー・2色刷り・モノクロページの3種類あり、それらのページ数もある程度制約されていました。掲載する文章は市議会など様々な会議を経て確定されたものを使用し、

デザインの都合で変更することは一切許されておりません。文章や図表等のボリュームと制約がかなり厳しい部分もありました。それらの制約の中で、学生達は、可読性が高く、グラフィカルで理解しやすい紙面を心がけてデザインしました。

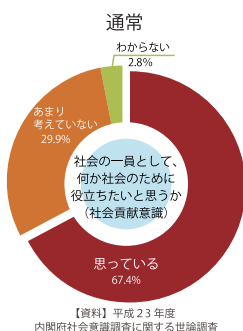
文字は、柔らかく懐が大きい可読性が高いものを多くの書体の中から選定し、使用しています。

色弱者にも判別がつくカラーユニバーサルデザインや、モノクロコピーした際にも可読性が損なわれないような色使いと、ホワイトスペースを適切にとって、読み手の気持ちが削がれないようなレイアウトを意識しました。

表紙や冊子内のイラストやダイアグラムなどにインフォグラフィックの考え方を適用しています。試作を何度も重ね、本計画の考え方を色や形によって可能な限りビジュアルにも伝えることができるようなデザインを心がけました。

（文責：隼田尚彦）

### ◆色弱シミュレーション



# 「しみサポ KIDS ページ」 リニューアル・プロジェクト

さっぽろまちづくり総合情報ポータルサイトのデザインプロジェクトは、4年前から斎藤一ゼミと隼田ゼミの合同プロジェクトとして継続して行ってきたものです。このプロジェクトのための学生まちづくりコミュニケーションツール検討委員会が立ち上げられた当初は、本学情報メディア学部の学生に加え、北大、札幌市立大の学生達も加わったプロジェクトチームで、様々な提案を行っていましたが、2～3年目は情報大メンバーのみで進められました。平成25年度は、しみサポ KIDS ページのリニューアルが目的で進められました。KIDS ページのデザインは情報大単独チームによるもので、コンテンツの一部にもなっている「さっぽろ子ども記者！」事業は、情報大チームに加え、北海道教育大学札幌校、札幌大谷短期大学の学生や、札幌物づくりオフィス&カフェ SHARE のインターン生による若者チームが子ども達をリードし



て進めました。

「さっぽろ子ども記者！」事業は、小学生の子ども達が、市民活動団体を取材して、楽しみながら市民活動を知ることが目的としたイベントです。学生メンバーは、その活動の取材および活動自体のサポートを行い、KIDS ページのコンテンツの一部に活用しました。

本プロジェクトの途中経過について

は、平成26年1月26日に地下歩行空間での市民活動のイベントや本学メディアデザイン展などにて展示を行いました。また、以下のURLにて、活動成果をご確認いただくことが可能です。

<http://www.shimin.sl-plaza.jp/>

(文責：隼田尚彦)



## 学生サポートセンターからのお知らせ

- 「北海道情報大学 大学説明会」開催
- 「北海道情報大学 企業・病院説明会」開催
- 卒業生インタビュー



### 「北海道情報大学 大学説明会」開催

平成 26 年 2 月 17 日（月）東京中野サンプラザにおいて「北海道情報大学 大学説明会」を開催しました。

この説明会の目的は、主に首都圏に所在している企業等に対し、本学が目指している教育研究の方向性やその内容を理解していただき、昨今の就職環境が厳しい中、学生の就職に結びつけていくことにあります。

説明会は、松尾 泰理事長の挨拶で始まり、まず、列席されている企業の方々への謝意が述べられました。その後、昨年起きた様々な出来事について、特に、地球上の至る所で起きている異常気象の問題や、職業倫理が軽んじられている問題があり職業倫理の原点に立ち戻ることが今の社会に必要であること等に触れられました。さらに、大学では、平成 25 年度から医療情報学部を開設し、情報の総合大学として確実に進展してきていること、主体的学びの質向上を高める教具として iPad を導入したこと等についてお話がありました。

続いて富士学長から本学の建学の理念、本学の現況や特色、目指す教育目的や大学の使命などについて説明を行いました。

学生の研究発表では、システム情報学科 3 年 阿波加 陸君から「e-learning システムで使用する教材の開発」、情報メディア学科 4 年 名越 慎君から「レイアウトに特化した CSS 学習サイト「Markup」ーリアルタイムプレビュー機能を備えた e ラーニング教材ー」の発表があり、続いて医療情報学科 4 年 小島 恒大君と福岡教育センター 4 年 西澤 亜季さんが卒業生代表の挨拶を行いました。

その後、株式会社インターネットイニシアティブ (IIT) 専務執行役員 金融システム事業部長兼クラウド事業統括の時田一広様から「クラウドエコノミー～技術革新と経済発展の関係～」と題して特別講演をいただきました。IIT は日本で初めてインターネットの商用化を目的として設立された会社であり、日本のインターネットの歴史につ

いて説明していただきました。また、企業の経営戦略策定におけるクラウドの位置づけはますます高まりつつあり、出席されたの方々にとっては、技術革新と経済の結びつきについて改めて認識する講演であったと思います。

説明会後の懇親会は、中村 忠之就職部長の挨拶、そして出席企業を代表して NTT データシステム技術株式会社代表取締役社長 佐々木 克様のご発声により始まり、企業と大学関係者、全国の教育センター長が就職状況や次年度の採用等について情報交換を行いました。各企業の方々からは、経済が少しずつ好転してきており、次年度の採用を増やすといった声が聞かれました。最後に和田龍彦副学長の締めの挨拶で懇親会は閉会となりました。

この大学説明会は毎年開催しており、今年度で 18 回目を迎えました。今回参加していただいた企業は 199 社、参加者数は 274 名でした。



## 「北海道情報大学 企業・病院説明会」開催

平成 26 年 2 月 27 日（木）京王プラザホテル札幌において、平成 27 年 3 月に卒業を迎える学生を対象に「北海道情報大学 企業・病院説明会」を開催しました。当日は説明会前に参加学生を対象にマナー講座を実施し、就職活動における基本的なビジネスマナーのアドバイス等を行い、説明会本番に備えてもらいました。説明会は合同説明会形式で、学生が企業や病院のブースを訪問し、概要や特色、求人内容や採用日程等を伺うという形で行われました。

40 企業、4 病院に参加していただき、

約 250 名の学生が会場に集いました。説明会に参加していただいた企業や病院の皆さまの中には、現場や人事として活躍している本学卒業生が担当者として後輩に説明を行う場面も見られ、学生は熱心にメモを取りながら話を聞いていました。

ご回答いただいたアンケートでは、「もっと積極性を表面に出した方がよい」、「若者らしく明るく元気に失敗を恐れずチャレンジして欲しい」、また「業界研究を深く行うとさらに良いと思います」というアドバイス、また「非常に熱心に説明を聞く学生が多かつ

た」という感謝のお言葉等、非常に貴重なお意見をいただきました。

説明会後の懇親会では、公益社団法人 北海道勤労者医療協会 本部 部長 大須賀 峰敏様から乾杯のご発声をいただき、その後教職員と企業・病院人事担当者との意見交換を行いました。学生サポートセンターでは、現在就職活動に励んでいる学生の皆さんが積極的に受験を行う中で、夏休み前を目標に内定、そして就職を決めることを期待しています。

## 卒業生インタビュー

現在就職活動真っ最中の 4 年生の皆さん、また数年後に就職活動を行う 1～3 年生の皆さん、就職活動について先月卒業した先輩からのメッセージをお届けします。

今回は、リコージャパン株式会社に就職した河合 元くんに入社直前インタビューを行いました。

**Q** まずは、営業を目指そうと思ったのはなぜですか？

**A** 顧客が一番近いところで提案の仕事が出来るからです。以前から人の悩みや、企画の立案・運営に携わる場面

がありその中で自分の提案力を生かして、人の役にたちたいと思い営業を志望しました。

**Q** いつ頃から就職活動を始めましたか？

**A** 3 年生の 7 月中旬です。8 月に行われた金融機関のインターンシップ（一定期間行える職場体験実習）を受けするため、7 月中旬から履歴書の準備や企業研究を始めました。

**Q** エントリーは何社位しましたか？

**A** 20 社程度と少なめだったと思います。「提案を仕事にできる事」、「広



いフィールドで働ける事」などの企業選びの軸を立てて、自分のやりたい事ができる企業をできる限り選び、エントリーしました。



Q どういう活動をしましたか？

A 企業説明会や合同説明会への参加はもちろん、会計を専攻していたのでホームページや有価証券報告書などをみて企業分析や比較の書類を作っていました。企業の方に見てもらおう事もあると思い、パンフレットのような形式にしてまとめました。

Q 何か就職活動で苦労したことはありましたか？

A 人事の方と話すときに自分の思っていた反応が得られなかったときは苦労しました。就職活動を行っていた期間はこういった事に興味を持つのか、どう話せばいいのかをずっと考えていました。

Q 筆記試験や面接試験の対策は行いましたか？

A 筆記試験対策はSPIのテキストを二度読み、後は実戦で勉強しました。面接に関しては大学内の模擬面接や一般のセミナーにも参加しました。答えられない質問があれば必ず次には言えるようにと普段から言い方を反復していました。

Q 面接で一番多かった質問は何ですか？

A 「学生時代に頑張ったところは？」と「あなたの長所を説明して下さい」が一番多く聞かれた事です。大学内で行っていた何気ない事でも自分が学んだ事、気が付いたことはメモを取る習慣をつけて対策をしていました。

Q 自分の内定ポイントはどこだったと思いますか？

A 最後はやっぱり熱意だったと思います。自分でもある程度実践を積んで、アピールポイントやセールスの能力をつけてきたつもりでしたが、「この会社に入りたい」、「この会社で働きたい」という思いが無ければ内定はありえなかったと思います。

Q 就職活動で何か親御さんから支援してもらいましたか？

A 一度だけ、当時の第一志望の企業で失敗し、落ち込んでいたときに家族からの仕送りで食べ物を送って貰いました。就活で忙しく体調に気を使う暇が無かったので、とてもありがたかったのを覚えています。

Q 就職活動で今思えばこうすれば良かったことなどありますか？

A もう少し「仕事」について考えればよかったと思います。自分がこの仕事に就いたときに「どう動くのか」、「何をするのか」という事が面接で出た時に、初めて仕事について真剣に考えました。今までやってきた事があったのにもかかわらず、その時にとても表面的な話ししかできなかった事は悔しかったです。

Q 就職活動を通じて学んだこと、成長したことなどはありますか？

A 自分や人の良い所を見つけやすくなった事、それを解りやすく人に伝える方法の二つが自分の就職活動の中で一番学んだ事ではないかと思っています。

Q 学生生活を振り返って、やっておけば良かったことはありますか？

A 資格取得はもっとやっておけばよ

かったかなと思います。資格にはほとんど興味がありませんでしたが、いざ就職活動になり、すごく苦労したことがあったのでやっておけばよかったと思います。

Q 来月から社会人となる現在の心境はどうですか？

A 知らない人に会うという期待がある一方、まだ分からない事がたくさんあり、今のままでは力量不足なのではないかという不安も強いです。新天地で生活することは苦ではないですが、自分を採用してもらった会社や応援してくれる家族、友人たちに恥じないように、できる限りの努力をしていきたいという考えです。

Q 最後にこれから就職活動する後輩にアドバイスをお願いします

A 就職活動は決して楽しいものではありません。言いたい事が伝わらなかったりちょっとしたミスで内定に手が届かない事や、仲間に抜かされたりして落ち込む事など様々なことがあります。一度、諦めてしまうとなかなか次の手が伸びません。諦めないように、就職活動を楽しむ努力が必要だと思います。最初のうちは正直、厳しいです。でも、経験を積んで解ってくると人事の方との面接を楽しむ事や、帰りの道で仲間とおいしい物を食べたりする余裕が出てきます。だからなるべく諦めないように。そして無理をしない範囲で、できる限り「楽しむ」努力をしていくように。これが後輩に出来る一番のアドバイスだと思います。



## 本学大学院生が CVG2013 北海道地区大会で最優秀受賞。 北海道代表として全国大会に！



全国の学生で競うビジネス提案コンテスト「CVG キャンパスベンチャーグランプリ 2013」が、2013年9月から開催され、本学大学院生らが提案したスマホアプリ「スクリーン・トーク」が北海道地区大会で<最優秀賞>を、特撮教育番組「道産子戦隊ノーザンレンジャー」が<奨励賞>を受賞しました。

今回の北海道地区大会では、道内13の大学などから62件の応募があり、第一次審査では書類審査、第二次審査ではプレゼンテーションとヒアリングが行われました。入賞は、最優秀賞が1件、優秀賞が1件、奨励賞が6件、努力賞が8件となっており、2月4日には、ホテル札幌ガーデンパレスにて

表彰式と祝賀会が開催されました。

「スクリーン・トーク」のチームは北海道代表として、3月6日に東京で行われる第10回 CVG 全国大会に出場します。

このコンテストへの参加は、本学大学院の講義「クリエイティブビジネス」（指導教員：安田光孝）の一環で昨年度から行われており、今回のチームもその受講生で組まれています。この講義では、コンテンツやアプリ、IT サービスをどうビジネスとして成り立たせるかを考え、ビジネスアイデアの創出とプランニングを訓練しています。

(情報メディア学科 安田光孝)

### 受賞者

<最優秀賞>

「スクリーン・トーク (Screen Talk)」  
岩田まどかさん(リーダー 大学院1年)  
熊谷賢二君 (院1年)  
メンゼン・リーズさん (研究生)

<奨励賞>

「北海道の子供達の夢と希望と健康を考えた特撮教育番組『道産子戦隊ノーザンレンジャー』」  
新川貴彬君 (院2年)

CVG キャンパスベンチャーグランプリ 2013

<http://www.cvg-nikkan.jp/index/hokkaidou/>

### 北海道情報大学大学院 経営情報学研究科経営情報学専攻（修士課程）学生の学会発表について

情報処理学会 第76回全国大会 (於：東京電機大学)	
3月11日	高橋 基 ネットワーク技術プログラム 修士課程2年 「SDNを構成するネットワークサービス間の連携を実現する方式に関する研究」
	山下 行人 メディア制作論プログラム 修士課程1年 「滞在時間に注目したWeb広告管理システム構築に関する研究」
3月13日	齊藤 成美 メディア制作論プログラム 修士課程1年 「北海道の独自性を学ぶためのLODを活用したWebサイトに関する考察」

# 平成25年度 北海道情報大学 公開講座 終了報告

平成25年度北海道情報大学公開講座にご参加いただき、まことにありがとうございます。厚く御礼申し上げます。おかげをもちまして、全22講座にたくさんのご参加をいただき、無事終了することができましたことをご報告させていただきます。

今後も北海道情報大学の社会教育活動にご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

- ・全22講座 56回実施
- ・総参加人数 291名



「Word2010初級講座」の様子

**No.1** ・現代子どものコミュニケーションの問題性とその解決法～教育カウンセリングを手がかりに  
 ・全1回 ・参加費1,000円  
 ・参加人数一般7名  
 ・教員免許状更新講習との合同開催

**No.2** ・食と健康  
 ・全3回 ・参加費1,000円  
 ・参加人数 一般32名

**No.3** ・人づき合いが良くなる教育カウンセリング1日体験講座～SGE技法を学ぶ(春期)  
 ・全1回 ・参加費1,000円  
 ・参加人数 一般10名  
 ・教員免許状更新講習との合同開催

**No.4** ・生活習慣病と遺伝子  
 ・全2回 ・参加費1,000円  
 ・参加人数 一般20名

**No.5** ・Word2010初級講座  
 ・全3回 ・参加費3,000円  
 ・参加人数 一般20名

**No.6** ・初めてのデジタルカメラ  
 ・全3回 ・参加費1,000円  
 ・参加人数 一般9名

**No.7** ・海外旅行を皆で語ろう  
 ・全4回 ・参加費3,000円  
 ・参加人数 一般5名

**No.8** ・自分で防ごう心臓病  
 ・全1回 ・参加費500円  
 ・参加人数 一般14名

**No.9** ・人づき合いが良くなる教育カウンセリング1日体験講座～SGE技法を学ぶ(夏期)  
 ・全1回 ・参加費1,000円  
 ・参加人数 一般6名  
 ・教員免許状更新講習との合同開催

**No.10** ・Welcome to the World of English!!  
 ～英語やり直し塾～  
 ・全3回 ・参加費1,000円  
 ・参加人数 一般12名



「夏休み自由研究～ロボットで科学を学ぼう～」の様子

No.11 ・夏休みこども  
ビデオ講座

- ・全2回 ・参加費 無料
- ・参加人数  
小学3年生～6年生 8名

No.16 ・サービスマネジメント  
を学ぼう

- ・全4回 ・参加費1,000円
- ・参加人数 一般11名

No.21 ・レベルアップ！  
フォトショップ中級編

- ・全4回 ・参加3,000円
- ・参加人数 一般11名

No.12 ・夏休み自由研究教室  
～ロボットで科学を  
学ぼう～

- ・全1回 ・参加費 無料
- ・参加人数  
小学高学年とその保護者  
27名（親子10組参加）

No.17 ・フォトショップ  
始めの一步 初級編

- ・全4回 ・参加費3,000円
- ・参加人数 一般16名

No.22 ・Excel2010  
初級講座

- ・全1回 ・参加3,000円
- ・参加人数 一般18名

No.13 ・モチベーション・  
マネジメント  
～文系のモチベーション  
・理系のモチベーション～

- ・全4回 ・参加費1,000円
- ・参加人数 一般15名

No.18 ・モーション  
キャプチャ体験講座

- ・全1回 ・参加費無料
- ・参加人数  
中学校1年生～  
高校3年生 2名

No.14 ・JavaScriptを用いた  
初級プログラミング

- ・全3回 ・参加費3,000円
- ・参加人数 一般7名

No.19 ・伝わるプレゼンテー  
ション ～初級パワーポ  
イントの使い方～

- ・全4回 ・参加費3,000円
- ・参加人数 一般15名

No.15 ・英語で  
コミュニケーション!!

- ・全4回 ・参加費1,000円
- ・参加人数 一般13名

No.19 ・実伝・日本の素粒子  
物理学  
～ノーベル賞を辿って～

- ・全2回 ・参加費1,000円
- ・参加人数 一般13名



「食と健康」の様子



「サービスマネジメントを学ぼう」の様子



「Welcome to the World of English!!～英語やり直し塾～」の様子

# ゼミ紹介

## 合同ゼミ 経営情報学部 先端経営学科



布が3つもあるから、頻りに奢ってもらえそう!」と気軽な気持ちで選択したゼミ生たち。世の中は、そんなに甘くありません。時間外の活動も多く、締めきり直前には、深夜まで作業やラインでのやり取りが続きます。

先端経営学科の合同ゼミは、メタボと闘うナイスミドルな藤本・坂本・向原の3名の教員が主催しています。四年生のゼミ生は、中国からの留学生4名を含めた総勢19名。ゼミ活動のテーマは、社会貢献プロジェクトの企画・運営です。

「社会貢献って、何か面白そう!」「財

昨年度は、江別出前環境学校として地域の子どもたちに環境の大切さを分かりやすく教えたり、大麻・野幌・江別の地区別将来人口を予測してまちづくり上の課題や解決策を提言したり、初めての経験に悪戦苦闘していました。しかし、「騙された」「虎の穴」「鬼畜」とボヤキながらも、この一年間でゼミ

生たちは大きく成長しました。

今年度は、地理情報システム(GIS)の操作方法を学び、まちづくり課題マップの作成や商圈・医療圏などの分析に活用します。また、「そらエコ」等の環境イベントの主催や雪氷エネルギーを活用した食品開発などの具体的プロジェクトに活動範囲を広げます。

これから専門ゼミを選択する先端経営学科の1年生から3年生の諸君。あっという間の大学4年間です。どうせなら、社会に貢献できる主体的な取り組みと、何かを苦労しながらやり切ったという達成感を一緒に経験してみませんか。



## 松田ゼミ 医療情報学部 医療情報学科



医療情報学科松田ゼミでは当学科のキーワードである「医療」「情報」に「工学」を加えた3つの分野の境界を研究テーマにしています。現在医療機関には様々な医療機器がありこれらの機器は医学と工学という二つの分野の研究により開発されていますが、近年はさらに情報の力によりその進化はより身近になってきています。当ゼミではコ

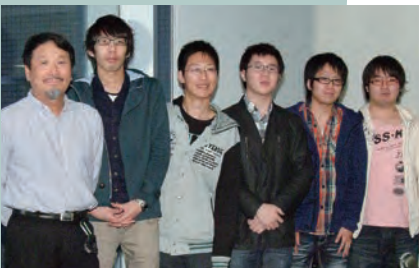
ンピュータによる医療機器・福祉機器の展開について研究をしております。ここでいくつかの研究内容を紹介します。

現在医療機関内でもPCやタブレットといった情報機器が使われていますが医療機関ならではの問題点があります。例を上げると病院内では衛生のために手袋を使用しますが手袋がタブレット端末のタッチパネルの操作に影響を与える問題があります。また医療機器自体も衛生的に保つ必要があり、一般オフィスや家庭のように使用

するわけにはいきません。当ゼミではこれらの衛生と操作性について研究しております。もう一つの研究例として視覚に関する補助機器の開発です。現代人は視覚に関して若年層では近視・乱視、壮年期以降は老視（老眼）、また人によっては飛蚊症から眼精疲労といった症状・不都合を抱えています。当ゼミではこれらの症状・不都合を情報機器により緩和解決できないかと研究をしております。

当ゼミは現在経営情報学部医療情報学科の3、4年生が参加していますが、来年度からは医療情報学部の学生が参加することになります。興味のある方は是非研究室のドアをたたいてください。

## 守ゼミ 情報メディア学部 情報メディア学科

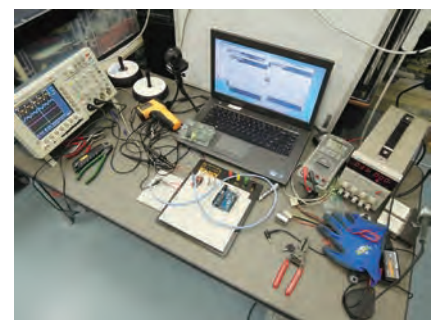


守ゼミでは、様々な形でコンピュータとコミュニケーションすることを目標としています。具体的な領域は、ヒューマンコンピュータインタラクション（接頭語でHCIと呼ぶ）という長い名前となります。この分野ではコンピュータを通常利用しているキーボードやマウス等以外の、ヒトとヒトの間で行われる自然なコミュニケーションと同様に、情報伝達をすることを目指しています。身近な例ではゲーム機やスマートホン上で遊ぶ体感ゲームで利用されるコントローラで

す。操作のためには加速度センサで人間の動きを検出し、その動きをコンピュータに伝え、一方ではコンピュータの情報をバイブレーション等の振動で人間に返しています。この他にも、画像や音で操作を行う方法や、各種センサで検出される値でコンピュータの操作をすることもできます。技術の進歩により、新しい手法で情報が検出できるようになり広い応用が期待されます。このような機器を組み合わせさせた装置を作成するためにはコンピュータの中だけでプログラムを作成するだけではなく、加えて電子回路等のハードウェアを作成することも必要となるため幅広い知識が必要となります。そのためゼミ配属から2年の期間でここまで進める学生は多くありませんが、各自テーマを選びスマートホンアプリケー

ション、音楽のエフェクタ等の卒業研究に取り組んでいます。

ゼミではまず全ての基本となるプログラムの基礎を学生が順番に発表をする形から、各自が興味を持つ内容を発表しディスカッションをする形へと進めていきます。ゼミの活動を通して、聞くだけだった受け身の講義等から問題を見つけ他人と意思疎通を図り共同して問題解決ができるスキルを身に付けていただくことをゴールと考えています。



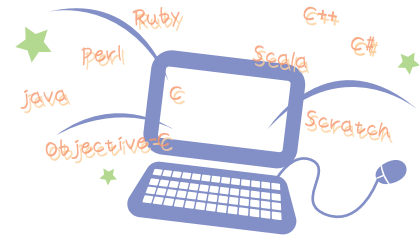


出会いと別れ、こんにちは。

Hello, Spring.



## 第8回プログラミングコンテスト結果報告



本コンテストは学生のプログラミング力の向上を目的としており、課題部門と自由部門の2部門で実施しています。今回、課題部門に13件、自由部門に21件の応募がありました。総数は34件ということで昨年度より減少してしまいましたが、課題部門は少しだけ増えています。来年度は両部門ともさらに参加が増えることを期待したいと思います。

### ### 課題部門

課題部門は昨年10月17日に応募を締め切り10月23日に受賞者が決定しました。本部門は昨年度の「カーレース部門」と同じような内容で車を制御するプログラムを提出する部門ですが、昨年度は指定されたコースを一周するだけの課題で初心者向けの部門として実施していたのに対し、今年度は2台の車を協調させながら20個の荷物をエレベータの上にあるゴールまで運ぶものとなっており、一転して上級者向けの部門として実施しました。最低限の機能を持つサンプルプログラムを参考にすることはできますが、その構造をしっかりと理解し、膨大な試行錯誤を重ねて開発を行わなければならないのがこの部門の特徴です。

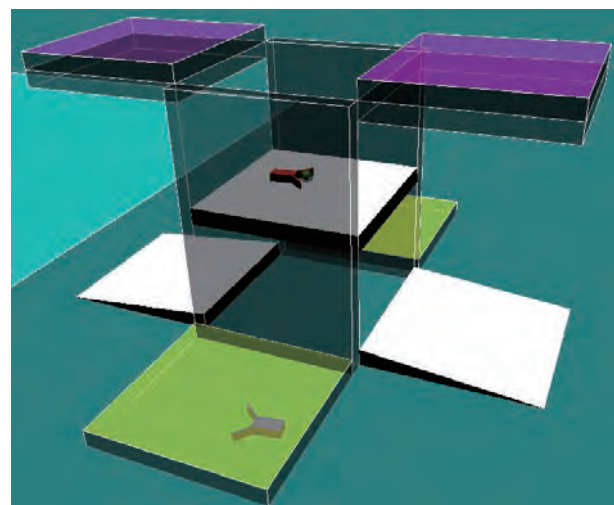
今回応募してもらった13作品の中には、新しい戦略にチャレンジしたものの失敗してしまいサンプルプログラムよりもタイムがのびってしまった作品

も多々ありましたが、そのチャレンジは評価したいと思います。受賞者は課題クリアまでのタイムのみで選出されます。特に最優秀賞の清水友豊君のプログラムは、様々な状況を想定し車がスタックするなどの問題を回避した上で、良く考えられた戦略と入念なパラメータの調整により極めて優秀な成績を出しています。

また、この課題部門の受賞者4人にはタイのラジャマンガラ工科大学のタンヤブリ校の学生とインターネット上で英語でコミュニケーションを取り、プログラムの共同開発をしてもらっています。当初1ヶ月での実施を予定していましたが、締切を何度も延長し、3ヶ月以上にわたりコラボレーションを行い作業を完成させたことは賞賛に値する立派な成果だと思います。

### ### 自由部門

自由部門は昨年11月14日に応募を締め切り、一次審査を通過した10件の応募者に12月18、19日の2日に分けてプレゼンテーション(公開二次審査)をしてもらい12月24日に受賞者が決定しました。自由部門は学生の作りたい作品を自由に作ってもらい評価する部門です。第1回から続いている内容ですが今年度は審査基準を変更し、プログラミングの技術的な部分の評価を低めに



課題部門 シュミレータ



設定し、そのかわり作品の趣旨や出来栄え、プレゼンテーションの評価の比重を増やし受賞者を選出しました。戻込みせずに多くの学生に参加して欲しいという意図があります。

ここ3年ほどは情報メディア学部からの応募が増えて上位を占めるようになっており、今年度も情報メディア学

部の学生が活躍しています。最優秀賞の「CIBE」と奨励賞の「ヂゴクヘン」はどちらもゲーム作品ですが、新しいタイプのゲームへのチャレンジや、入念な作り込みが高く評価されました。優秀賞の「海中遊泳」はメディアアート作品でありKinectというデバイスとScratchというプログラミング環境を利

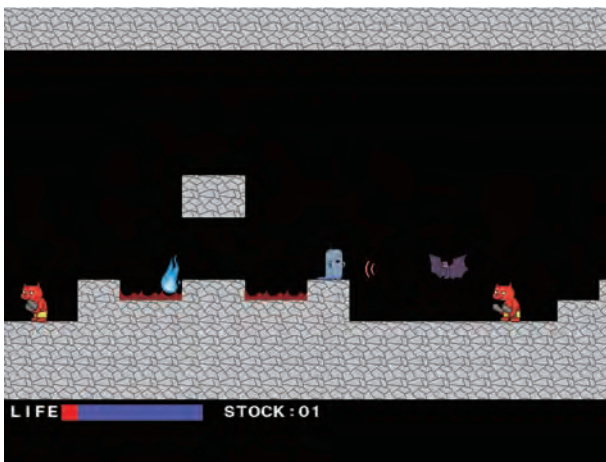
用して、体を使って海中遊泳を体験できる非常に斬新な作品です。奨励賞のもう一件「GMC Sim」という作品は、アンドロイド端末で動作する4bitマイコンのシミュレータです。4bitマイコンがきちんと再現されておりタブレット端末のUIを生かして使い易さも追求されています。



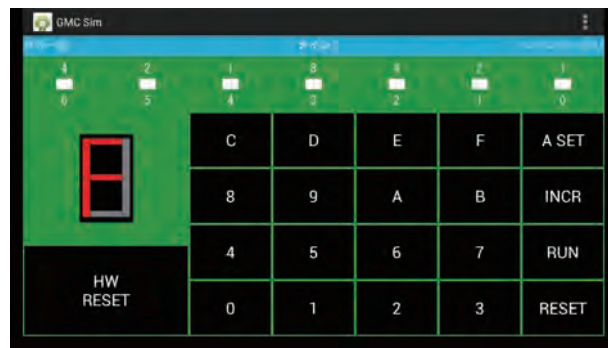
自由部門 最優秀賞『CIBE(Color is Battle Energy)』



自由部門 優秀賞『海中遊泳』



自由部門 奨励賞『ヂゴクヘン』



自由部門 奨励賞『GMC Sim』

## 受賞作品

### 課題部門

- 👑 最優秀賞 (副賞3万円)  
1112092 清水 友豊 平均:305.88(最速:285.07)
- 👑 優秀賞 (副賞2万円)  
1012098 名久井 勇人 平均:1693.13(最速:1141.17)
- 👑 奨励賞 (副賞5千円)  
1112024 淵辺 俊広 平均:1909.13(最速:1343.10)  
1112023 藤原 一樹 平均:1971.53(最速:1064.90)

※課題部門については来年度、優秀な成績をおさめた学生には、タイに行ってもらい、現地の学生と共同開発をしよう予定です。募集などについてはポスターなどで告知します。是非参加してください。

### 自由部門

- 👑 最優秀賞 (副賞2万円)  
『CIBE(Color is Battle Energy)』  
1123078 佐藤 晋 1123009 小林 優太  
1123079 佐藤 雄哉
- 👑 優秀賞 (副賞1万円)  
『海中遊泳』1022065 森田 榛花
- 👑 奨励賞 (副賞5千円)  
『GMC Sim』1112069 鈴木 雄斗  
『ヂゴクヘン』  
1123018 千葉 純希 1123019 出町 祐斗  
1123022 中館 愛仁

受賞者の作品は<http://procon.do-johodai.ac.jp/>のサイトからダウンロードできます！ゲームほか、課題部門のシミュレータもダウンロード可能です。

北海道情報大学

# メディアデザイン展 2013

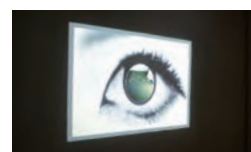
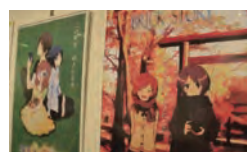
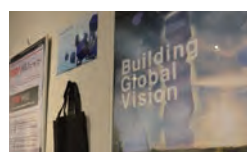
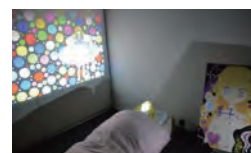
北海道情報大学

## メディアデザイン展 とは

メディアデザイン展は2008年度から学生が主体となり企画から運営まで行っている展示会です。優秀な成績を収めた学生の作品を中心に、卒業制作やコンテスト、プロジェクトといった

様々なコンテンツを展示し、毎年2月に大通りの「大丸藤井セントラル スカイホール7階」で開催しています。本展示会の目的は、在学生はもちろんのこと、高校生や社会人の方々まで、

より多くの人に情報大学の魅力を伝えることにあります。またこの展示会をきっかけに、学生同士が刺激を受け、より高みを目指していけるようにという願いがあります。

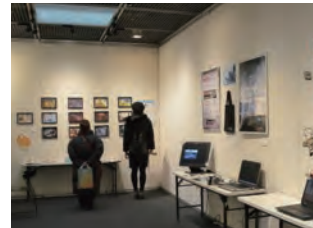


卒業制作など展示作品



Creative Associates

-創造する仲間たち-



準備期間、開催中の様子

## 今後の目標

新年度を迎えると、リーダー陣を中心に1～3年生のプロジェクトメンバー募集をします。ここから約1年をかけて試行錯誤を重ね、前年度に負けない素敵な展示会が開催できるよう制作を行います。プロジェクトメンバーは全学部から募集を行っていますが、毎年メディア学部の学生が多いというのが現状です。メディアデザイン展という名前から、本来の意味ではなくメ

ディア学部のデザイン展と勘違いされることも少なくありません。これからはそういったイメージを払拭するため、学内での説明会やイベントを開催し、情報大学における認知度を高めたいと考えます。まずはこれらをきっかけに、メディアデザイン展に行ってみてほしいと思ってもらえることが第一です。そして長期的に見て、全学部の生徒でプロジェクトを発足しより素晴ら

しい展示会を開催できることを目標とします。互いに意見を出し合い切磋琢磨しながら、年々進化し続けているのがこのメディアデザイン展の魅力の一つでもあります。これからは学部を超えた繋がりを強くし、より幅広いジャンルに挑戦していきたいです。



学科学部は問いません。複数班に分かれて、ビジュアルデザインや会場装飾、宣伝活動などを行ってまいります。

学内開催「メディアデザイン展説明会」や「イベント」の詳細は近日公開！

興味がある方は、下記のメールアドレスまでご連絡ください。

一緒にメディアデザイン展を盛り上げましょう！

 [hiumde@gmail.com](mailto:hiumde@gmail.com)

## 第一回 ● 日中学生文化交流会を開催して

システム情報学科教授 玉置重俊



本学の外国人留学生委員会が主催して、今年の1月16日（木）に、日中学生文化交流会というイベントを初めて開いたので、その時の具体的な活動内容や課題などについて、本学の教職員や学生及び留学生たちにも、広く紹介してみたい。まず、この交流会を開催した目的やねらいについて、簡単に触れておこう。

周知のように、最近の日中関係は、特に両国政府間レベルにおいて、一昨年の日本政府の尖閣諸島国有化以来、両国関係は日増しに悪化して、まったく改善の兆しが見えない状況になっている。したがって、我々も将来の日中両国の関係や交流がどのように推移するのかについては、多くの困惑と心配が付きないのだが、ただ、このような相互批判の厳しい現状は、日中国交正常化以来の四十年を通して、様々な友好発展の基盤を築きあげることに、地道に尽力された人々にとっては、極めて残念で憂慮すべき事態と言える。

特に、本学にも六十名以上の中国人留学生が大志を抱いて、遠い日本にまで勉強に来ているのに、日中政府間における深刻なトラブル続きでは、彼らの日本での生活にも、暗い影を落とすし、また留学生生活自体が楽しくならない状況も出てくるに違いない。

したがって、このような時期にこそ、一般国民の立場から、両国の若い学生たちは、お互いの文化や国情について、率直に語り合い、理解し合って、真の友情と交流を深める場や機会を持つことが、一段と必要とされているのである。

ただ、日中の学生同士が討論を行う場合には、テーマによって、いささか参加しにくい面も出るので、今回は参加学生同士の交流を第一に図るために、まず相手の国の言語を使用する方法がもっとも関心と親しみを高め

るのではないかと判断して、次のような企画案を作成してみた。

それは、日本の学生たちは、習得した中国語で簡単な自己紹介だけを試し、中国の留学生はやはり日本語のレベルが高いので、ある決められたテーマから、日本語を用いて、短いお話をしてみるというものであった。本学での私の講義には、中級レベルの中国語を履修する学生が二十名近くいたので、彼らを無理矢理、中国語の実践能力を高めるためと説得して、この交流会にできるだけ参加させてみた。

交流会の中では、もちろん日本の学生が流暢で素晴らしい中国語を話したわけではないが、彼らが話した自己紹介の内容は、留学生にも聞き取れる程度のものであったし、何よりも彼らがたどたどしい中国語を、懸命に頑張って話したことが大変よかったと思う。また、彼らの奇怪な中国語も不思議とおもしろい演出のようで、留学生たちの笑いや戸惑いを誘っていた。

特に今回は、日本の学生も努力すれば、ある程度の中国語が話せることを、中国人留学生にもきちんと認識させ、刺激も与えたかったのである。とにかく



く、このささやかな目的は、会場の留学生たちの驚きや笑顔などの表情からも、概ね達成できたように感じた。

ちなみに留学生たちは、それぞれのクリスマスをどのように過ごしたのか、春節はどのように過ごすのか、中国で流行しているゲーム、日中の文化・習慣の違い、中国料理の種類とその作り方、そして自己紹介や日本での留学生活の話題などについて、各自が流暢で可愛い日本語で、しっかりと発表してくれた。

ここまでは、予定通り進行してなかなかよかったのだが、後半に準備した「最近の日中関係をどう思うか？」と

いうテーマでの討論会では、積極的に発言する学生や留学生がほとんど現れず、いささか盛り上がり欠けた討論会のまま、時間切れになってしまった。

今回は、とにかく第一回目の日中学生文化交流会だったが、総勢の参加者は、中国人留学生二十名、日本人学生十六名程度にもほり、二階の会議室は若い学生の熱気や好奇心で溢れていた。

会場には、国際交流・留学生支援室のスタッフや教員の方も見

学に来て下さった上に、参加者には軽食や飲み物なども提供されたので、この文化交流会は、やはり成功裏に終わったとしておきたい。



## ● 学内囲碁大会報告 ●

昨年（2013年）11月28日、29日の両日、学内囲碁大会が開催されました。暮れの何かと忙しい時期だったため、教員の参加者は囲碁部顧問の竹内教授（二段格）と梅津教授（四段格）の二名にとどまり、やや寂しい顔ぶれとなりましたが、それでもメキメキと力をつけてきた学生諸君とベテラン教員の間で熱戦が繰り広げられました。結果は、実力をいかに発揮したシステム情報学科四年生の樋口洋一郎君（七段格）が決勝で梅津教授を破り、見事優勝しました。樋口君が入部してから他の部員もどんどん力をつけてきており、いずれは道内の学生棋戦団体戦で優勝するのもまったくの夢物語で

はないと思います。将来楽しみの多いクラブですので、是非新入生諸君もたくさん入部して囲碁部を盛り上げていってください。

最後になりますが、第一回囲碁大会の頃からよく顔を出して下さった元経営情報学部長の故林雄二先生は、「囲碁の強い学生はプログラミングもよく出来る」と言うのが口癖でした。その林先生の言葉を実証するかのように、部長の清水友豊君（四段格）が今年のプログラミングコンテストで最優秀賞に輝きました。謹んで林先生のご冥福をお祈りいたします。

囲碁部顧問 梅津 真



# 留学生の餅



つき会



平成25年12月28日（土）、年末年始を日本の学生寮で過ごす外国人留学生による「餅つき会」を実施しました。外国人留学生13名、学生サークル異文化交流会の日本人学生10名、教職員4名の総勢27名が参加しました。

毎年、年末年始の冬休みは、学生寮で生活する日本人学生の多くは実家に帰省します。そして、友人や家族達と一緒にクリスマスや正月を過ごします。日本で生活している外国人留学生にとって、この時期は寂しさを感じるとともに、街の雰囲気から、正月を迎える日本人の生活文化を肌で感じる時期でもあります。日本で年末年始を過ごす留学生に、日本の伝統的文化の

ひとつである餅つきを体験してもらいました。前日に餅米を洗い、一晩水に浸して準備しておきました。当日は餅つき会場となる体育館入り口に、石臼（いしうす）や杵（きね）を持ち込み、屋外には薪ストーブを利用して三つのかまどを設置しました。かまどを設置するために皆で協力して除雪を行い耐火レンガを敷きました。そして、かまどの準備ができると薪（まき）割（わり）や火おこしを体験しました。釜のお湯が沸き、蒸（せい）籠（ろ）の餅米が蒸しあがるまでの時間を利用して、隣のかまどで大鍋を使って豚汁を作りました。前日からの食材準備や、調理するまでの屋外作業などで苦労しましたが、寒い中

でのあたたかい豚汁はとても美味しく、僅か10分程度で大鍋が空っぽになりました。餅は4臼（うす）（8KG）搗（つ）きました。留学生のほとんどは杵（きね）を持つのも初めてで、楽しく賑やかな餅つきとなりました。硬い餅米が蒸（む）されて搗（つ）くことで柔らかな餅に変化して行く過程を、興味深く観察している学生もいました。搗（つ）きたての餅は、温かく柔らかいうちに大根おろし餅、きなこ餅、あんこ餅にして美味（おい）しくいただきました。

留学生にとっては、日本の伝統行事の一端を体験することができ留學生活の貴重な一時（ひととき）を過ごすことができました。（国際交流・留学生支援事務室）

「一射入魂」みんなで楽しく弓道しています！

# 弓道部



今年で創部2年目、弓道部では現在経験者7名、初心者5名、計12名の部員で活動しております。経験者はもちろん、未経験者でも気軽に弓道を楽しめるような環境にしておりますので、みんなで集まって楽しく練習しています。創部してからまだ間もないですが、地域の弓道関係者や他校とのコンタクトを取るなどの行動を起こし部の力を伸ばしています。皆様の協力によって、サークルから部へ昇格して、特注の倉庫も用意いただきました。ありがとうございます。

この部活動は皆様のご協力の上で成り立っています。弓具を提供して下さった方々、弓道ができる環境を作って下さった方々への感謝の気持ちを忘れず、これからも頑張っていきたいと思えます。今年度の目標は、弓道審査を受け、全員で段位を取ること、そして他校との練習試合や全道弓道選手権大会に出場することです。大会に出場するためには、多くの選手が必要になります。

私たちは一緒にの目標に向かって楽しくメリハリのある仲間を募集しています。経験者、未経験者問わず、弓道に興味のある方大歓迎です。体育館で練習していますので、興味のある方はいつでも見学にお越しください。一緒に弓道を楽しみましょう！

# 第6回 北海道情報大学図書館賞

- 6th Hokkaido Information University Library Award -



第6回北海道情報大学図書館賞の表彰式が既報のとおり、昨年12月2日に行われた。立花審査委員長より作品全般についての講評があり、中居常務理事からは、読書の大切さについての

視点からお話しがあった。

本賞の優秀賞以上の受賞作品は、学内報「ななかまど」に掲載し紹介することになっていますが、今年度は、残念ながら最優秀賞の該当作品はありま

せんでしたので、読書感想文部門の優秀賞2作品、小論文部門の優秀賞1作品計3作品を一挙掲載いたします。

## 第6回 北海道情報大学図書館賞 審査結果一覧

### 第一部門 読書感想文

- 最優秀賞（該当作品なし）
- 優秀賞 副賞：図書カード（二万円）
  - ・ベンジャミン・パトン その生と死  
中川 翔 先端経営学科3年
  - ・『星の王子様』を読んで  
早瀬 仁哉 情報メディア学科1年
- 佳作 副賞：図書カード（一万円）
  - ・星のかけらを読んで  
中田 千智 情報メディア学科2年
  - ・『今すぐやる人が成功する』を読んで  
山沢 琴美 先端経営学科1年
  - ・「夏の庭 The Friend」を読んで  
阿部 奈穂 情報メディア学科1年
- 奨励賞 副賞：図書カード（三千元）
  - ・『吾輩は猫である』を読んだ感想文  
朴 美虹 南京大学2年

### 第二部門 小論文

- 最優秀賞（該当作品なし）
- 優秀賞 副賞：図書カード（二万円）
  - ・『こころ』における「私」と「先生」の関係について  
柴田 甚一 通信教育部3年
- 佳作 副賞：図書カード（一万円）
  - ・「日常生活におけるコミュニケーション上の失敗を減らすための工夫について～情報処理における一考察から～」  
館巖 晶子 通信教育部3年
- 奨励賞 副賞：図書カード（三千元）
  - ・TPPについて  
副島 那月 先端経営学科2年



◇ 読書感想部門 優秀賞

# ベンジャミン・バトン その生と死

中川 翔 (経営情報学部 先端経営学科 3年)

人は赤ん坊として生まれ成長し、年を取り大人になる。やがては体に自由がきかない老人となりその一生を終える。自分の死を意識するようになった頃、多くの人は過去の経験を思い出すことだろう。これがもし、老人として生まれ、年を重ねるごとに若返っていく、そんな人とは逆の人生だったならば、その人はどのような運命をたどるだろうか。これをユーモアとペーソス(物悲しさ)で描いた作品が『ベンジャミン・バトン 数奇な人生』である。この作品は映画にもなっており、こちらの方が広く知れ渡っているかもしれない。

しかし、映画と原作とは全くの別物となっている。映画では、生まれた赤ん坊は老人のように顔や体中がしわだらけで、その容姿から生みの親に捨てられてしまう。その後、女性との運命の出会いや生みの親との再会、そして若返っていく中での苦悩があり、その中で愛とは何かを知ってゆく。

一方、原作では生まれた時はどう見ても70代の「おじいさん」という姿で生まれてくる。父と会った時の第一声は「あんたが、わしの父さんかい？」と生まれて数時間にもかかわらず会話をしている。親に捨てられることはない。20歳になり、見た目は50歳になったとき、大人の魅力が好きな若い女性と出会い結婚をする。しかし、月日と共に妻は老いていき、逆に夫はどんどん若返っていく。互いに魅力を感じら

れなくなり、離婚はせずともという状態になる。主人公は、自分が若返っていくことに苦悩するというよりは、その状況にもどかしさを感じているように思われる。

先に映画を見ていた私は初め、この違いに驚いた。映画の方が愛をテーマにしているのに対し、原作は主人公ベンジャミンの人生における周りとのズレに重点を置いているように感じられた。人とは逆の人生をユーモアに描き、時には皮肉を入れる。そして、そこはかとなく物悲しさを感じさせる作品である。人生を逆行するため、人との衝突が避けられない暗く重い話として進むと思っていたが、主人公の心理描写があまり描かれず、話は淡々と進んでいくため、以外にも明るい感じに物語が進んでいくことが印象的であった。

主人公は物語の中で、常に傍から見ただ年齢と実年齢との差に苦い経験をしてきた。生まれてすぐのころは、心身ともに70代にもかかわらず、父親は彼を赤ん坊として扱おうと必死だった。大学に合格し、相談のため事務室に向かうと保護者に間違われ、口論の末、入学を取り消されたことがあった。また、従軍した経験があり、軍の方から再び登用したいと通知を受けキャンプへ向かったが、坊やと呼ばれてしまったほど幼くなってしまった主人公は当然相手にされず、今では保護者となってしまった息子に家に戻されることとなる。確かに主人公は特別な人生を歩

んでいる。誤解が生じて無理はない。その行動に自重してほしいものもあるだろう。それにしても周りの人間というものは冷たいものだとは私は感じてならない。人は誰も自分の中の常識にとらわれて生きているものだ。もしその常識から外れたものがあれば、それを自分の価値観で押さえつけようとしたり、あるいは見なかったふりをしたりする者がいる。そうした人たちがこの作品の中ではよく現れる。もし、主人公が心の中でひどく苦悩し、それが鋭く描かれていたならもっと暗い作風となり、今とはだいぶ違った印象を受けたと思う。しかし主人公がその人たちをあまり気にしないようにしているのか、はたまた作者がそのことを感じさせないように描いているのか、どちらにせよ、そんな冷たい人たちの視線におびえて内気になるのではなく、より新しいことを求めていく主人公には勇気ももらった。私は常に人の視線を気にしてしまう質である。何かをするときはまず周りの行動に合わせてやってしまう。協調性があっていいと言ってくれる人もいるが、自分ではもう少し主体性を持ったほうがいいと考えている。この作品の主人公は人生のリズムこそ逆であるが、積極的に社会に出て、その歳でできることを精いっぱい楽しんでいる。歳による周りとのズレを合わせようと努力もするが、何より自分に正直に生きている。私は人と対立することを極力避けて生きてい

るが、この本を読み、もっと自分の意見を前に出していった方がためになるのではないかと、時には人の意見とぶつかり、そこで得られるものを大事にしていくことが重要なのではないかと思わせてくれた。

私が最も印象に残った場面は、主人公が息を引き取る最後の場面である。老人として生まれたのだから、死ぬときは赤ん坊にまで若返って眠るように死んでいくのだろうと予想ができた。そのため、読み進めて主人公が若返っていくたびに寂しさを感じた。私自身は、死ぬときは苦しい病気などではなく、老衰のような楽な死に方をしたいと考えており、赤ん坊に戻って息を引き取ることはとても安らかな死に方であると考えていた。しかし、最後のページを読み終え、私はとても悲しい気持ちになった。主人公はどんどん若返っていく。若返っていくことは、体もそうだが、知能も幼くなってしまうので

あり、自分に死が近づいていることを理解していないのだ。歳を取れば物忘れをするが、彼の場合はそのようなレベルではなく、自分が何者であり、何を成してきたかといったことをすべて忘れてしまう。そうして言葉さえ忘れてしまった時、自分のベッドと世話をしてくれる人物だけが彼の世界のすべてになっていた。「やがて、何も憶えられなくなった。空腹のときだけ泣く - それだけ」というこの表現がとても切なかった。今までのことを何も思い出せず、これからの自分に起こることを何もわからないのだ。「昼も夜も呼吸し、かろうじて聞こえるかすかなぶつぶつというつぶやきに耳をすませ、かすかにいろんな匂いを感じ、光と闇を見分けられるだけ」と、赤ん坊として当たり前行動が何とも言えず私の心に悲しく響いた。なぜ悲しくなっているのか。私は主人公に、自分が死ぬということを覚悟してほしいのだと思

う。世の中には自身の死を受け入れられない人もいるだろう。その人たちは覚悟ができずとも、そこからの生き方を考えることはできるはずだ。だがこの主人公に死への意識は皆無である。自身の最後を考えることすらできないのだ。赤ん坊として生きた最後はとても幸せだったと思うが、私はここに言葉では表現に難しい、納得のいかない悲しさが渦巻いている。自分が死ぬと意識さえすればいいというわけではなく、そこに何かしらの誇りを持ってほしいのかもしれない。私がそうでありたいように。

人生を若返って生きる主人公と、そんな彼にかかわる人たち、そして訪れる死。ユーモアもあるが、やはり切なさのほうが強くて心に残ったこの作品は、短編ではあるがとても奥が深く、人生というものを見つめなおし、死に対しての新たな価値観を発見させてくれる大きな機会を私にもたらしてくれた。

## ◇ 読書感想部門 優秀賞

# 『星の王子様』を読んで

早瀬 仁哉 (情報メディア学部 情報メディア学科 1年)

私がサン＝テグジュペリの『星の王子さま』を読むのは今回が初めてではない。これまでに数回読んできた。しかし、私はこの本を読んだ後、毎回しばらく放心し、そして物思いに耽ってしまう。それは、この本が『星の王子さま』という絵本のようなタイトルと、それに見合った可愛いイラストであるにも関わらず、とても哲学的で、

様々なことを考えさせられる本だからである。今回改めてこの作品を読んで考えさせられたのは、作中に出てくる、「絆を結ぶ」、「なくてはならない存在」、「いちばんたいせつなことは、目に見えない」という言葉が、一体どのようなことを指すのかということだった。

私が数あるエピソードの中で特に好きなのは、王子さまとキツネの出会い

の場面だ。王子さまは、元々住んでいた星と、愛していた一輪のバラに別れを告げ、いろいろな星を旅し、地球に降り立った。そこで、自分が愛していた一輪のバラにそっくりなバラがたくさん咲いているのを見つける。その時、王子さまは、自分が愛していたバラは実はありふれたものであったことにひどく落ち込み、野原の上で突っ伏して

泣き出してしまうのだ。キツネと出会ったのはその時だった。

この場面で、キツネが印象的なことを言う。「きみはまだ、ぼくにとっては、ほかの十万の男の子となにも変わらない男の子だ。(略) きみにとってもぼくは、ほかの十万のキツネとなんの変わりもない。(略) でも、もしきみがぼくをなつかせたら、ぼくらは互いに、なくてはならない存在になる。」

王子さまはキツネと絆を深めたのち再びたくさんのバラ達と対峙する。その時、王子さまはバラ達にこう言う。「あれ、きみたちは、僕のバラにはぜんぜん似てないや。誰も、きみたちをなつかせたことはなかったし、きみたちも、誰もなつかせたことがないんだ。はじめて会ったときの、キツネみたいだ。(略) でも、それからぼくたちは、友だちになって、今ではこの世で、一匹だけのかげがえのないキツネなんだ。」

このとき王子さまは、自分がバラと絆を結んでいたことに気が付いたのだ。自分が愛していたのは、自分自身が水をやり、嫌がる風や毛虫から守り、時には文句や自慢話に耳をかたむけていた、あのバラだけだったのである。たくさんのバラ達と香りや美しさは変わらなくとも、自分のバラだけが「なくてはならない存在」なのだ。

星に住んでいたころの王子さまは、「この星に一輪しかないバラ」だから、美しく、愛おしく思っていたのかも知れない。しかし、王子さまがああバラを愛していたのは、自分自身が、時間をかけたバラだからなのだ。それも、ただ時が流れるままに時間を掛けたのではなく、バラを大切に想い、一所懸命に時間を使った。だからこそ、初めはそっくりに見えたたくさんのバラ達

も、一瞬で自分のバラとは違うということに気が付いたのだ。

このエピソードは、「絆を結ぶ」とはどういうことなのかを教えてください。それは、友情を深めたり愛情を注いだりするために、時間を掛けるということだ。相手のために料理を作ったり、買い物に付き合ってもらったりすることによって、相手と絆を結んでいくのである。

私はキツネとバラのエピソードを日常でふと思い出すことがある。特に、大学内にいる時は思い出すことが多い。それは、私が大学に入学したばかりの頃、周りが見知らぬ人達ばかりだったからだと思う。

私にとって、あの頃の周りの人間は、それぞれが、数百人の内の見知らぬ人であった。今ではかけがえのない存在となった友人でさえ、たまたまクラスと一緒にいただけの、自分にとって何でもない人ばかりだった。しかし、それが今となっては、一人はアニメ好きで物知りな友人、一人は勉強が得意な友人、一人は嫌味っぴいだがどこか憎めない友人など、容易に区別できてしまう。その人の得意分野や、どんな話題を出せば話が盛り上がるかなど、そんなことまで知っている。ほんの数か月前まで見知らぬ存在だった人のことを、私は今、こんなにも知っているのかと、そして逆に、私がどんな人間なのかを知ってくれる存在が、その分いるのかと考えると、とてつもなく嬉しく感じるのである。初めは十万の中のありふれた存在だったけれども、今ではお互いに世界で唯一の特別な存在になっているのだということが、とても素晴らしいことだと感じるのだ。

大学の友人とは、何がきっかけでお

互いに特別な存在になれたのか。考えてみると、それは決して難しいことではなかった。これまでの大学生活を振り返ってみると、宿泊研修や体育大会などの学校行事があるたびに友人が増えていた。しかし、行事があったというだけで友人が増えたわけではなく、そこには友人をつくるために、もしくは友人のために使った時間があったからなのだと思う。

特に、体育大会の種目であるサッカーの練習の際には、メンバーのためにたくさんの時間を使った。練習をしている時には、それぞれにあだ名をつけ合ったり、冗談を言い合ったりするほど仲良くなれた。本番の試合では、あまり良い結果は残せなかったものの、それよりも、新しいつながりができ、友情を深められた喜びのほうが大きかった。それはやはり、サッカーに参加してくれたみんなが、それぞれお互いに時間を使ったからなのだと思う。メンバーの内、一人でも時間を独り占めしていたら、きっと行事と同時に終わる関係になっていただろう。しかし、メンバー同士が時間を掛けあったから、それぞれが特別な存在になったのだ。

キツネは、王子さまにこう伝えていた。

「きみは忘れちゃいけない。きみは、なつかせたもの、絆を結んだものには、永遠に責任をもつんだ。」

私は、体育大会が終わって数か月たった今も、サッカーをした仲間と一緒に外食したり遊びに行ったりして、時間を掛けている。もちろん、前よりも仲良くなったことで、もっと話してみたいなという気持ちが生まれたからだが、そうしなければ、せっかく新しくできたつながりも、他の数十万の人

と見分けがつかなくなっていくのかも  
しれないと思ったからだ。絆を結んだら、責任をもたなければいけない。このキツネの台詞によって、いつも仲良くしてくれ、また心配してくれる、友人や家族など、近くにいる存在をないがしろにしてはいけない責任が私にはあるのだと、気付くことができた。

キツネと王子さまの間には、やがて別れが訪れる。キツネは、別れのお土産に、「いちばんたいせつなことは、目に見えない。」という言葉が王子さまに贈る。このキツネの言葉は、言わずと知れた『星の王子さま』屈指の名言であるが、ここでいう「いちばんたいせつなこと」とはどのようなことなのかを最後に考えてみたい。

私の考えた「いちばんたいせつなこと」とは、時間である。キツネも、「き

みのバラをかけがえのないものにしたのは、きみが、バラのために費やした時間だったんだ。」と王子さまに伝えていた。

家族と過ごした時間、友人と遊んだ時間、愛犬を世話してきた時間、恋人とデートした時間、先輩に教わりながら夜まで働いた時間、どれも大切だが、目で見ることにはできない。しかし、だからこそ、世界でたった一つのつながりが、とても美しく見えるのだと思う。きっと、一生懸命費やした時間は、私にとってだけではなく、相手にとっても、私をなくてはならない存在にしてくれるのであり、お互いを特別な存在にし合ってくれるのだ。

私はこれからも、世界でたった一つの、美しいつながりをたくさんつくりたい。そのために、時間を大切に思っ

て、特別な存在を多くしていきたいと思う。そして、今回気づいたことを忘れないためにも、またしばらく経ったら、私はもう一度この本を読みたいと考えている。この本を読み返すと、「いちばんたいせつなこと」が何かを再確認することができ、不思議なことに、読む度に新たな発見もあるからだ。

私は、これからたくさんの人と触れ、経験をし、様々な視点から色々なことを考えられるような学生になっていきたい。そのために、今回『星の王子さま』で再確認したこと、大学生活を通して改めて気づかされたことを忘れずに、これからの大学生活では、自分自身に時間をゆっくり掛けていきたい。そして、多くのつながりとお互いに特別な存在であり続けたいと思う。

## ◇ 小論文部門 優秀賞

# 『こころ』における「私」と「先生」の関係について

柴田 甚一（通信教育部 3年）

1. 「私」と「先生」の関係とは  
ほとんどの人が夏目漱石の『こころ』を一度は目にしたことがあるだろう。私自身、高校生の頃、「先生」のKに対する気持ちやKにおける理想と現実などをテーマに国語の授業で学習したことを記憶している。

『こころ』は上「先生と私」、中「両親と私」、下「先生と遺書」の三部から成る長編小説であり、教科書では主に下「先生と遺書」のみが掲載され、上と中は省略されていた。しかし、「先

が「私」にあてた「遺書」をより深く理解するためには、その伏線となる上と中を読み込む必要がある。

その過程の中で、「遺書」を託すまでになった「私」と「先生」の関係とはいかなるものだったのか、という一つの疑問が浮かび上がる。「先生と関係を絶えるのは私にとって大いな苦痛であった」(p137 l 16 i) (以下同じ)とある。それでは、絶えることが「大いな苦痛」となるほどの「先生」と「私」の関係とはいったい如何なるもので

あったのであろうか。

2. 様々な角度からとらえた「私」と「先生」の関係

(1) 前段階として（「先生」に対する「私」の心の変化）

「私」と「先生」の関係を明らかにするうえで、前段階として、「先生」に対する「私」の心の変化を考察する必要がある。

「私」は「先生」との関係を「二人の間を繋ぐ同情の糸」と表現している

(p24ℓ10)。「先生」に対する「私」の態度は、「私」の生活のなかで尊ぶべきものの一つとなっており、「先生」への畏敬・尊敬の念が窺える (p24ℓ7-8)。この点において、いまだ師弟関係ととらえることができる。

「先生」宅に足繁く通う「私」に対して、「先生」はその行為を「恋に上る階段」と比喻し、「異性と抱き合う順序として、まず同性の私の所へ動いて来た」(p42ℓ16)のだと断言している。恋心とまでいかないにせよ、「私」の「先生」に対する心の変化は、郷里から「先生」あてに手紙を出した際の「私」の心持の変化から推察することができる。

父親が倒れ冬に帰郷した際に「私」は「先生」あてに手紙を書いている。手紙を出す時に「先生」からの返事を「私」は期待しておらず、返事が届いた時には「私」は一寸驚いている (p70ℓ7)。

その後、大学を卒業した夏に帰郷し、「先生」あてに手紙を出したときには、返事の来るのを予期してかかるくらい心持が変化している。しかし、返事は来ず「私」は淋しい心持になっている (p124ℓ14)。「先生」からの返事はなかったが、それでも「私」は淋しさから、さらにまた「先生」へ手紙を書いている (p128ℓ16)。先の「先生」に対する「私」の心持とは大きく異なっており、「先生」に会いたい、「先生」が愛おしい、恋しいという「私」の「先生」に対する心持の変化が表現されているのではないかと考えられる。

### (2) 特別な「相思」の関係

「私」は、「漲る心臓の血潮の奥に、活動々と打ちつづける鼓動を聞き」(p72ℓ3-4)、「その鼓動の音が、ある微妙な意識状態から、先生の力で強め

られているように感じ」ている (p72ℓ4-5)。そして、「先生」は、歓楽の交際から出る親しみ以上に、何時か「私」の頭、胸(心・精神)に影響を与え、「肉のなかに先生の力が喰い込んで」と云っても、血のなかに先生の命が流れていると云っても」(p72ℓ10-13)過言ではないと言っている。

「先生」は「先生」で、下「先生と遺書」において、「私」が「先生」の「心臓」を立ち割って、温かく流れる血潮を啜ろうとしたから」(p173ℓ8-9)、「先生」は「今自分で自分の心臓を破って、その血をあなた(「私」)の顔に浴びせかけようとしている」(p173ℓ10-11)のだと言っている。そして、血を浴びせかけた後、「先生」は「鼓動が停まった時にあなた(「私」)の胸の中に新しい命が宿る事が出来るなら満足」(p173ℓ11-12)だと言っている。

この点について、鶴田欣也氏は、「私」という人間が「先生」にとって、「先生の命を引き継いでいく息子のよう」(ii)、特別な人間になっていると指摘している。さらに、鶴田氏は、「血を顔に浴びせかけたり、胸の中に新しい生命を宿したという異常な情熱から推定すると、むしろ、静を妻の座から追い出し、「私」に代理妻の役を与えているような印象さえ受ける」(iii)と述べている。「先生」と「私」との間には、密な部分があり、他人が入り込めない特別な「相思」の関係が存在しているといえるだろう。

### (3) ホモソーシャルな関係

『ころ』という作品には、ホモソーシャルが存在していることを多くの漱石研究者が指摘している。

ホモソーシャル(Homosocial)とは、同性愛嫌悪(ホモフォビア)と女性嫌悪(ミソジニー)を伴うことを基本的

な特徴とした、男性同士の強い連帯関係(緊密な絆、社会的絆)のことを指す概念であり、アメリカのジェンダー研究者のイヴ・コソフスキー・セジウィックによって提唱された概念である。ホモセクシャル(同性的)とは異にする点に注意が必要である。二人の男性が同じ一人の女性を愛している時、例えば『ころ』において「先生」と「K」が「御嬢さん」を同時に愛してしまったときに、いつもその二人の男性(「先生」と「K」)は、自分たちの欲望の対象だと思っている当該女性(「御嬢さん」)のことを気にかける以上に、はるかに互いが互いを(「先生」は「K」を、「K」は「先生」を)気にかけている、ということを指摘している。体育会系などで顕著に見られ、それ自体同性愛的なものでありながら、男性同性愛者を排除し、異性愛者同士で閉鎖的な関係を築くものである。ホモソーシャルな関係によって、強制的に異性を愛することが前提として成り立っている家父長制が構成される。

石原千秋氏は、近代社会(明治時代)は家父長制・父権制社会であり、「ホモソーシャルは父権制的という意味にもなる」(iv)と指摘している。さらに、石原氏は、『ころ』における「先生」と「K」との関係は「ホモソーシャルの典型だ」(v)と述べているが、「先生」と「私」の間にもホモソーシャルの関係を認めている。「先生」は男としてどうしても「私」に満足を与えられない人間であると(p43ℓ3)、同性愛嫌悪(ホモフォビア)とも受け取れる言い回しをしている。

また、『ころ』における女性嫌悪(ミソジニー)についても研究者によって指摘されている。「御嬢さん(静・妻)

は下らない事によく笑いたがる女」(p241 2-3)として表現されたり、「語り手(「私」と「先生」)を通してしか語られない御嬢さん(静・妻)には、自己の内面を直接語る言葉がほとんど与えられていない」(vi)と阿部曜子氏は指摘している。さらに、「先生」の遺書の最後には、「妻が己れの過去に対してもつ記憶を、なるべく純白に保存して置いて遣りたい」(p327 2-3)から、妻が生きている以上は、真実を伝えないで秘密にしてほしいと、「妻への思いやりを前面に出しながらその陰で静は締め出され、排除されている」(vii)とも指摘している。

「先生」と「私」あるいは「先生」と「K」との関係性をホモソーシャルな関係と解することにより、妻(静・御嬢さん)の物語の中での役割や妻の発言・自分の言葉に関する記述が少ない点について、納得がいくかもしれない。

#### (4) 精神的な関係

「私には学校の講義よりも先生の談話の方が有益」(p45 2)であり、「教授の意見よりも先生の思想の方が有難い」(p45 3)と言っており、「思想上の問題に就いて、大いなる利益を先生から受けた」(p95 12)と自白している。ここに「先生」と「私」の精神的なあるいは思想上のつながりを見ることが出来る。さらに、「先生」が「あかの他人であるという明白な事実」(p72 14)に「私」は驚いている。この点については、平岡敏夫氏が指摘する「精神的親子」(viii)という表現が的を射ている。

ことあるごとに「先生」と「父親」との対比・比較が行われるが、「先生」を高い処にある高尚な存在と位置づけ、田舎の父親のいる俗世界への批判意識を常に抱いている。その帰結とし

て、「私」は瀕死の父親を放り投げて、東京行きの汽車に飛び乗り「先生」のもとへ向かうという、大胆な行動をとることになる。そこには「父親」<「先生」という精神的な関係が成立しているものと考えられる。

#### 3. まとめ

以上のように「私」と「先生」との間には、どれか一つの関係というよりは、むしろこれら複数の関係が交差せよとなつて、「特別な関係」が形成されていたものと考えられる。それは、絶えることがとても苦痛な、特別な「相思」の関係、ホモソーシャルな関係、精神的な関係であったものといえる。それゆえ、「私」は実の父親を棄て、「先生」は他ならぬ「私」に「遺書」を託したのだと考えられる。「私」と「先生」との関係を念頭に、上・中・下と『こころ』を改めて読み進めると、「遺書」について違う角度からとらえることができるかもしれない。

#### 引用文献

- i) 夏目漱石『新潮文庫 こころ』新潮社、2011.3.5(引用頁行はその都度本文に表示)
- ii) 鶴田欣也「テキストの裂け目」(『漱石の『こころ』どう読むか、どう読まれてきたか』所収)、新曜社、1992.11.27、p220 12
- iii) 前掲書 ii)、p220 13-14
- iv) 石原千秋「ホモソーシャル—夏目漱石『こころ』、向田邦子『あ・うん』、三田誠広『いちご同盟』」(『國文學解釈と教材の研究』2月臨時増刊号所収)、學燈社、2001.2.10、p104 下段 5-7
- v) 前掲書 iv)、p105 下段 5-6
- vi) 阿部曜子「ホモソーシャルな男た

ち—グリーン『情事の終わり』を漱石『こころ』を介して読む一」(『四国大学紀要』所収)、四国大学、2007、p71 二段 34-36

vii) 前掲書 vi)、2007、p72 一段 2-3

viii) 平岡敏夫『漱石序説』、塙書房、S51.10.5、p342 6

#### 参考文献

- 1) Wikipedia「ホモソーシャル」<http://ja.wikipedia.org/>
- 2) 木下恭子「変容する男性主体：The Professor's House におけるホモソーシャルな関係を中心に」(中京英文学 22 所収)、中京大学、2002.3.19、pp1-21

# Library News

## 図書館Q&A ～図書館のこと知っていますか？～

みなさんは図書館を利用したことがありますか？

まだ利用したことがない人も、利用したことがある人も、図書館についてどれくらい知っているか下のQ&Aで確認してみてください。

**Q1. 図書館はどこにあるの？**

**A.** 図書館はeDCタワーの4階から6階にあります。入退館は4階からのみとなっていますので、ご注意ください（特別な事情がある場合はエレベーターも利用できます。まずは、4階のカウンターにお越しください）。

**Q3. 図書館では何冊本が借りられるの？どれくらいの期間借りられるの？**

**A.** 各利用者区分によって冊数、期間が異なります。右記の表をご覧ください。

**Q2. 本はどうやって借りればいいのか？**

**A.** 学生証（身分証）と借りたい本を持って4階カウンターまでお越しください。貸出の手続きをします。また、カウンター前にある自動貸出更新装置を使って自分で手続きすることもできます。

**【自動貸出更新装置】** →  
※通信教育学部生、学外利用者の方は現在のところ利用できませんので、カウンターまでお越しください。



区 分	冊 数	期 間
学部生・本学職員	10冊	2週間
大学院生	30冊	2か月
通信教育学生	10冊	2か月
教 員	50冊	2か月
学 外 利 用 者	5冊	2週間



【カウンター横返本台】



【図書館入口返却ポスト】

**Q4. 貸出期間の延長は可能ですか？**

**A.** 予約がついていない本に限り、3回まで、貸出期間を延長することができます。延長したい資料と、学生証（身分証）を持ってカウンターまでお越しください。※通信教育学生は更新ができませんので、期限内の返却をお願いします。

**Q5. 本はどこに返却すればいいのか？**

**A.** カウンターにいるスタッフに手渡すか、カウンター横にある返本台に本を置いておいてください。図書館閉館時に本を返却したい場合は入口の返却ポストに本を入れておいてください。

**Q6. 読みたい本が図書館にないのですが……**

**A.** 図書館では本学の学生を対象に図書館に入れてほしい本のリクエストを受け付けています。申し込み用紙に必要事項を記入し、カウンターに提出してください。

**Q7. 図書館の情報はどこかに載っているの？**

**A.** 北海道情報大学図書館のホームページに、開館情報や蔵書検索（OPAC）が載っています。そのほか不明な点は、カウンターまでお気軽にお声を掛けてください。

今年度も多くの方のご利用をお待ちしています。

# マックとビデオの ネイティブ 会話

## ネイティブスピーカーが 教える 第3回 エマージェンシー会話

救急編

本学・北海道情報大学には、たくさんのネイティブスピーカーの外国人教員がいます。この先生達は、外国語の講座だけではなく、色々な研究・学習場面の外国語が必要なときにも指導やアドバイスに参加します。例えば、世界経済、ウェブサイトの研究に外国語は欠かせません。そんな時に、間違いのない外国語で表示できるのも、彼らの力があるからです。



6

転んで膝を打った! 病院に連れて行って!

I fell down and hurt my knee! Please take me to a hospital!

我摔了一跤碰破了膝盖, 快送我去医院吧!

ウオ ショアイ ラ イ ジオ ボン ポ  
ラ シ ガイ, クアイ スオン ウオ チュイ  
イ ユエン バ!



中国語

田中 英夫

1994年3月 大阪市立大学大学院経営学研究科(商学専攻)後期博士課程修了 1999年4月 京都大学経済学部(非常勤講師) 2000年4月 北海道情報大学経営情報学部(講師) 2001年4月~ 北海道情報大学情報メディア学部(講師、助教授、教授)



きゃー! ドアに指を挟んだ! いたいよお!

Ouch! My finger got stuck in the door! It really hurts!

哎哟! 我手指被门夹住了, 好疼啊!

アイヨ! ウオ シアオ ス ベイ メン  
ジァ ジュ ラ, ハオ トン ア!



English

Charles McLarty

1981, 6/15 Portland State University-English Literature and Teaching English as a Second Language (B.A.) 1987, 6/15 Monterey Institute of International Studies-Japanese Studies (M.A.) 1993, 4/1~ 北海道情報大学(講師、准教授)



@

急に熱が高くなった。お薬ありませんか。

Oh no! I've suddenly got a fever! Do you have any medicine?

我突然发了高烧, 你有没有退烧药?

ウオ トウ ラン ファ ラ カオ シアオ,  
ニ イユ メイ イユ トオイ シアオ ヤオ?



屋台の唐揚げ食べたら、お腹が痛くなった

I ate some fried chicken at a street vendor's stall. Now I have a stomach ache!

我在大排档吃坏了炸鸡肉, 肚子好疼啊!

ウオ ズアイ ダア パイ ダン チ ホア  
イ ラ ジァ ジ ルウオ, ドウ ス ハオ  
トン ア!



日差しが強くて、気を失いそうです。

The sun is so hot and glary! I feel like I'm going to faint!

阳光强得太刺眼, 我头有点晕!

イアン グアン チァン ダ タイ ツ イ  
エン, ウオ トオ イユ デエン ユン!

ネイティブ会話を動画で見よう!



↑QRコードはこちら! ↑

<http://www.youtube.com/watch?v=CyauxXDG9mA>



# この先生の裏の顔シリーズ

## 第3回 谷口 文威 先生

経営情報学部

この男の姿を他人が思い浮かべるとき、必ず身につけているものがある。それはラップトップ PC か携帯電話（かそれと似たようなモバイル機器）だ。充電切れ、圏外という状況に陥ると、防御力が弱まりダメージを受けやすい状態になるため、外出時に wi-fi ルーターや充電用バッテリーの携帯は欠かさず、場合によっては OA タップの所持も視野に入れる。充電力、電源確保力は高く、その点での信用は厚い。キャンプなどのアウトドアでのアクティビティ時も、そのスタンスはブレないという。

自宅でも PC（かモバイル機器）に触れていることが多く、一見何をしているのかが謎に思えるが、プログラミング作業を行っていることもあるらしい。使い勝手を良くするためにウェブサービスなどをプログラミングして自分仕様に変えたり、日常的にプログラムして遊んだり実験をしているようだ。

外出時に携帯するものは他にもある。それは文庫本か電子書籍端末だ。一番好きな趣味は？という質問には、この男は読書と即答するだろう。

ただ読書が趣味と一口に言っても、読書のスタイルは人それぞれ、ジャンルや読み込み方でも特徴が出るが、この男の場合、ミステリ、SFを軸に結構なんでも読む雑食系だということだ。

読書に関して言うと、この男の場合は数（冊数）も大事で、年 100 冊読むことを心に決めているらしい。しかし己が決めたルールに苦しめられる年もあるという。昨年は 160 冊を達成、今年も好調に冊数を伸ばしているものの、一昨年は苦しい年だったと聞く。年末に近づいても目標冊数に届きそうもなかったが、除夜の鐘を終了時刻を告げるタイマーのブザー代わりに、読書→読了→電子書籍購入→読書→読了、という読書レースをなぜか繰り返していた。

電子書籍の登場と市場への浸透はありがたい、とこの男の妻は語る。自炊（所有する本の電子化）派ではないため、本の増殖は谷口家の悩みの種なのである。

この男が独身の時は、部屋に本があふれて洪水・

氾濫を起こしており、キッチンや玄関の靴箱まで本が浸食していたのを、妻は目撃している。

さて、最近この男が新たな肩書きを手に入れたというニュースをキャッチした。株式会社えにしテックという札幌のソフトウェア開発の会社でアドバイザーをしているらしい。2007 年から Ruby というプログラミング言語に関する活動を行っているコミュニティ、Ruby 札幌での活動に携わり、国内外のプログラマーと交流を深めてきたことから、このたびアドバイザーをお願いされることになったということだが、さてこれは研究活動を再稼働させる良い機会となるのか。乞うご期待。



情報大学の女子生徒の、日々の学校生活をお伝えします！！今回は大学内を飛びだして、おいしい課外授業です♪

# HIU系女子の活動日記

3がつ6にち さわい

ゼミに入って一年。  
そして考える事…

3学年からゼミナールに配属されますが、活動内容は各学部でさまざまです。そんな知られざるゼミの内情を探るべく！今回は大学を飛びだして **チュッタ！江別店さん**にお邪魔してランチをしながらの座談会を行いました。

スープカレー専門店 ㊤!!

江別店限定メニューもあります🍴



大学から徒歩10分！情報大生には定番！?

集まってくれたメンバーは、**医療情報学科**（佐藤ゼミ・上杉ゼミ）と**情報メディア学科**（森川ゼミ・川上ゼミ）の4年生4名ずつ、情報メディア学科の3年生が1名。もちろん女子のみ！



ゼミの決めかたとは？

**医療のゼミ**は、ゼミを持つ先生が講義を開いてくださるので、そこでゼミについてのプレゼンを聞いて参考にするのだそう。『定員より希望している人が多い場合は、希望者の中で話し

合って決めたりしなきゃいけなかったり…でも最終的には成績で足切りかなあ』『希望するゼミが早くから決まってしまう人は、先生の研究室訪問をして仲良くなっておいたりすると、内定が決まりやすいかも…?』という話も出たので、早い行動が決め手となる可能性が…！

一方で**メディア学部**のゼミは、各々でゼミの先生の研究室を訪問・面接をし、POLITE 上で配属先希望を出すという一連の流れを経て決められます。基本的に先生側にゼミ生の決定権が委ねられています。

それぞれのゼミの様子は？

**医療のゼミ**は、資格の勉強やプレゼン練習、就職対策、さらに生物学に興味がある学生は研究をしていたりと様々。ゼミの先生との関わりは、『イベントごとにお疲れさま会（飲み会!）を開いて親睦を深めてる!』先生方の多くは病院や医療関係の企業出身であり、『上杉ゼミは、先生が医療関係の企業と結びつきが強かったりするらしい。ゼミに入ったら iPad を借りられるメリットもあるよ』

**メディア**の森川ゼミは、ゲーム制作をメインとしているゼミ。『今年は女子3人増えたけど…テクノロジー専攻の男子がほとんど。デザイン専攻で絵を描ける人も募集してるよ』ゼミの時間は進捗報告をメインとするので、各自で制作時間を確保しなければいけないのが大変なんだとか。『ニコニコ動

画の“自作動画フェス”から出品依頼がきて、ゲームの実況動画を投稿したりもした。ゲームが好きな人は楽しいと思う〜』



食べものは、写真も撮ってらした。5.7.5

ゼミ初心者の新3年生から質問！

「一年間ゼミ活動をしてどうですか?」という質問を受け、『3年生は資格勉強が多くて…もう少しプレゼン練習と卒論準備をしようと思ってたからギャップがあった』『作業が多くて大変そうって言われるけど、好きなことをしているからそんなに大変だとは思わない!』という声。「ゼミでの辛かったエピソードは?」という質問には、『デザインって作業時間を費やせば完成するものではないから、締切とクオリティとの折り合いをつけるのが大変で試行錯誤してる…』などの制作面についての回答がいくつか挙がりました。質問してくれた新3年生の彼女は川上ゼミに配属決定!希望した理由を、『グラフィックデザインがしたくて!先生が持つ授業も全部受けました。友達と一緒にだから、ではなく自分のしたいことを優先しました。』と答えてくれました。



# 大学主要行事など

＜12月21日～4月1日＞

## ◆◆ 教職員の動向 ◆◆

◇法人本部◇  
《職員》  
3月31日付  
(退任・退職)  
常務理事・本部長 中居 聡士  
(退職)  
総務課係長 渡利 国彦  
(退任)  
理事・事務局長 横田 敏雄  
事務局次長・財務課長 高澤 誠一  
事務局次長 石川 弘行  
(兼務を解く)  
総務課長・企画調査室長 石川 弘行  
4月1日付  
(就任)  
常務理事 光武 松雄  
理事・本部長 山本 徹  
理事・事務局長・財務課長 石川 弘行  
(昇任)  
総務課 課長代理 河村 まき

◇大学◇  
《教員》  
3月31日付  
(定年退職)  
教授 和田 龍彦 (医療情報学科)  
教授 林 雄一郎 (情報メディア学科)  
(退職)  
教授 高野 俊夫 (情報メディア学科)  
准教授 倉部 直子 (医療情報学科)  
講師 今井 希 (先端経営学科)  
(辞任)  
副学長 和田 龍彦  
情報センター長 谷川 健  
4月1日付  
(採用)  
准教授 栗山 敏 (先端経営学科)  
教授 渡部 重十 (システム情報学科)  
講師 佐瀬 雄治 (医療情報学科)  
准教授 奥村 昌子 (医療情報学科)  
教授 佐藤 裕二 (医療情報学科)  
教授 高橋 文 (医療情報学科)  
講師 福光 正幸 (情報メディア学科)  
准教授 伊藤 一正 (情報メディア学科)  
特任教授 林 雄一郎 (情報メディア学科)  
(就任)  
副学長 澤井 秀  
医療情報学部長 西平 順  
情報メディア学部長 松井 伸也  
大学院研究科長 谷川 健  
図書館長 古川 正志  
就職部長 若松 義男  
情報センター長 廣奥 暢  
教務部長 富士 隆  
(昇任)  
教授 高井 那美 (准教授)  
教授 森山 洋一 (准教授)  
教授 サイモン・ソーラ (准教授)  
教授 隼田 尚彦 (准教授)  
教授 向田 茂 (准教授)

《事務職員》  
3月31日付  
(兼務を解く)  
学生サポートセンター事務室課長 橋本 充浩  
4月1日付  
(昇任)  
学生サポートセンター事務室 学生課 課長代理 古賀 朋子  
学生サポートセンター事務室 就職課 課長代理 瀧澤 浩基

## ◆◆ 主要行事 ◆◆

◇法人本部◇  
2月13日 理事会・評議員会  
3月 3日～5日 有限責任監査法人トーマツ「平成25年度期中監査」  
3月26日 理事会・評議員会

◇大学◇  
12月21日 特別A〇入学試験(A日程)  
23日 通常授業日  
26日 全学教授会  
28日～1月5日 冬期休業  
1月11日 酪農学園大学との交換授業  
10日 経営情報学部教授会  
13日 推薦2期入学試験  
17日 医療情報学部教授会  
情報メディア学部教授会  
18日～19日 大学入試センター試験  
25日 特別A〇入学試験(B日程)  
南京大学外国語学院聴講生学部・学科・専攻入学試験  
24日 全学教授会  
29日 後期授業終了  
30日～2月4日 合同試験期間  
2月 2日～3日 一般1期入学試験  
14日 入学前教育プログラム(仲間作り)  
経営情報学部教授会  
17日～22日 追再試験期間  
17日 大学説明会(東京)  
21日 医療情報学部教授会

情報メディア学部教授会  
特別A〇入学試験(C日程)  
24日 保護者の会役員会  
25日～26日 入学前教育プログラム(学習支援)  
27日 企業・病院説明会  
28日 全学教授会  
3月 5日 臨時経営情報学部教授会  
臨時医療情報学部教授会  
臨時情報メディア学部教授会  
7日 FDフォーラム  
10日 一般2期入学試験  
12日 奈井江商業高等学校との高大連携調印式  
13日 経営情報学部教授会  
医療情報学部教授会  
情報メディア学部教授会  
14日 学生相談室活動報告会  
19日 学位記授与式  
20日 特別A〇入学試験(B日程)  
28日 全学教授会

◇大学院◇  
1月16日 研究科委員会  
31日 学位論文等公開発表会  
2月 7日 大学院入学選抜試験(2次募集)  
3月 4日 研究科委員会  
27日 研究科委員会

◇通信教育部◇  
12月20日～22日 後期地方スクーリング(1)鹿児島のみ  
後期地方スクーリング(2)新潟のみ  
1月10日～12日 後期地方スクーリング(2)東京、大阪、福岡  
25日～26日 後期印刷・インターネットメディア授業科目試験②  
24日 春期第4回入学選考  
2月21日 春期第5回入学選考  
3月14日 春期第6回入学選考  
19日 学位記授与式  
31日 春期第7回入学選考  
4月 1日 前期インターネットメディア授業開始

## ◆◆ 広報活動 ◆◆

《進学相談会》  
1月:北海道 5会場(留寿都、滝川、紋別)  
2月:北海道 4会場(伊達、函館、名寄、稚内)  
3月:北海道 7会場(室蘭、帯広、釧路、岩見沢、北見、函館、羽根)

《高校内ガイダンス》  
2月:北海道 3校(追分高校、北広島西高校、津別高校)  
千葉県 1校(柏日体高校)  
3月:北海道 4校(遠軽高校、旭川明成高校、芦別高校、美瑛高校)  
神奈川県 2校(相洋高校、立花学園高校)

《高校内進路講演会》  
1月:北海道 2校(クラーク記念国際高校[大通キャンパス]、名寄産業高校)  
2月:北海道 6校(名寄産業高校、室蘭東翔高校、美唄尚栄高校、クラーク記念国際高校[白石キャンパス]、余市紅志高校、クラーク記念国際高校[大通キャンパス])  
3月:北海道 4校(札幌東豊高校、稚内大谷高校、名寄産業高校、滝上高校)

《高校出張講義》  
1月:北海道 1校(奈井江商業高校)  
3月:北海道 1校(駒澤大学附属苫小牧高校)

《高校訪問》  
1月:北海道88校、栃木県1校、埼玉県7校、千葉県2校、東京都8校、神奈川県6校  
2月:北海道105校、茨城県2校、埼玉県1校  
3月:北海道125校、東京都1校

《オープンキャンパス》  
3月23日 本学

《入試説明会》  
2月23日 本学

《大学説明会(高校1・2年生対象)》  
1月26日 本学  
2月23日 本学  
3月23日 本学

《大学進学資金説明会(保護者対象)》  
1月26日 本学  
2月23日 本学  
3月23日 本学

◇通信教育部◇  
《入学説明会:本学独自》  
12月:5会場(本学、東京(2)、名古屋、大阪)  
1月:4会場(本学、東京(2)、福岡)  
2月:1会場(東京)  
3月:3会場(本学、東京(2))

《合同入学説明会:私立大学通信教育協会主催》  
2月:12会場(札幌、仙台、さいたま、東京(2)、横浜、名古屋(2)、大阪(2)、広島、福岡)

## ◆◆ 主な来学者 ◆◆

◇大学◇  
1月31日 北海道総合政策部長 一行

## ＜訃報＞

平成26年2月7日(金)、林雄二名誉教授(享年72歳)が逝去されました。  
謹んで、故人のご冥福をお祈りいたします。

## ななかまど編集隊 vol.60

### 編集後記

卒業式も終わり、編集隊もこの号が最後の編集という隊員も多くいます。ななかまどを学生が編集することに決まってから、レイアウト構成やデザイン、様々なことを先輩方が引っ張ってってくれていたために、卒業してしまうのはとても寂しいですし、不安でいっぱいです。そんな中、新入隊員も徐々に集まってきました！出会いと別

れの季節ですね。今度は私たちが見本になれる立場になっていけばいいと思います。

また、新入生も入学し、新しい1年がスタートします。ななかまどでは、毎号違う学部やゼミの紹介を掲載していたり、プロジェクトやイベント行事の活動報告のページも多くあります。他の学部が何をしているのか、今後のゼ

ミ選びや、新学期から何か始めようかな？と思っている方がいらっしやいましたら是非、歴代ななかまどを眺めて参考にしてみてください。きっとお役に立つ情報が掲載されていると思います。そして、そんなななかまどを一緒に作りたいと思ってくださる方は下記に詳細を記載していますので、お気軽にご連絡ください♪



an editor

編集隊募集中

現在、ななかまどと一緒に編集してくれる方を募集しています。デザインを一から試行錯誤し、担当ページを作り上げていくため、大変な部分もありますが、とてもやりがいのある制作です。本の編集に興味のある方、やったことがない方でも、やる気があれば大歓迎です。あなたの作ったページがそのまま、ななかまどに掲載されます。私たちと一緒にななかまどを編集しませんか？気になった方、参加したい方は情報メディア学部・川上研究室（228）までお越しください。